

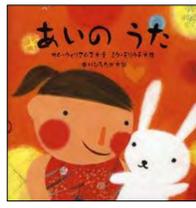
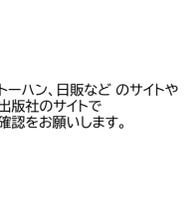
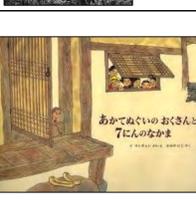
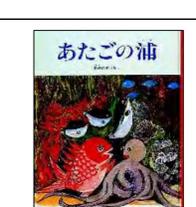
# ブックリスト

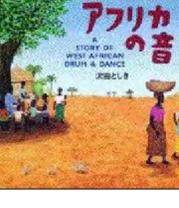
## 「戦争と平和を考える絵本・・・」 207冊

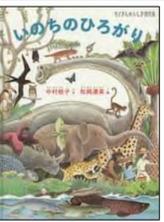
これまで、2022年3月ブックリスト「戦争と平和を考える絵本58冊」  
2022年8月ブックリスト「平和を子どもたちと考える 戦争を語り描いた絵本87冊」を作成し、HPに掲載した。  
今回、これまでのブックリストに掲載していない作品と新しく発刊された作品を取り上げてまとめた。  
戦争を知ること、戦争という事実としっかりと向き合うこと、平和を願うということ、  
そのためには「豊かな心」の感性がなくてはならないことを、あらためて実感した。  
より多くの実践が、このブックリストから生まれることを願っている。(編/野村邦重)

掲載は、書名の五十音順です。  
2020年以降に発刊された新しい本は、色づけして  
います。シリーズの本も別の色で色づけしています。

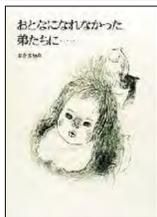
e-hon、絵本ナビ、出版社サイト他より、出版社からの紹介などを掲載。

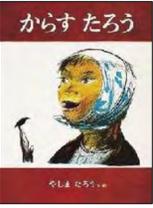
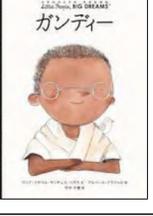
	<p><b>あいのうた</b> サム・ウィリアムズ/文 ミク・モリウチ/絵 中川 ひろたか/訳</p>	<p>講談社 2007.7 1,760円 注文不可</p>	<p>幼児～小中まで かけがえのない君を思う、この気持ち が愛。</p>	<p>目をつむってすずかに立ちましょ。足のうらに地面を感じてください。どこまでも広がる地面を感じてください。これは、地球です。地球の丸みを感じてください。つぎに、首のうしろの方から頭にかけて一本アンテナを立ててみてください。そのアンテナの先にふれる風を感じてください。そのアンテナの先の空を感じてください。アンテナの先をすずんと伸ばして行ってください。足元の地球から、一本伸びていくアンテナの先を感じてください。わたしたちは、宇宙のなかにいます。宇宙に包まれています。ほら、少し聴こえてきませんか。きれいなうたが聴こえてきたでしょう。そう、それが「あいのうた」。</p>
	<p><b>アウシュヴィッツの図書係</b> アントニオ・G・イトウルベ/著 小原 京子/訳</p>	<p>集英社 2016.7 2,420円</p>	<p>戦争がもたらすもの ナチス・ドイツ 読み物</p>	<p>アウシュヴィッツ強制収容所に、囚人たちによってひっそりと作られた“学校”。ここには8冊だけの秘密の“図書館”がある。その図書係に指名されたのは14歳の少女ディタ。本の所持が禁じられているなか、少女は命の危険も顧みず、服の下に本を隠し持つ。収容所という地獄にあって、ディタは屈することなく、生きる意欲、読書の意欲を失わない。その懸命な姿を通じて、本が与えてくれる“生きる力”をもう一度信じたくなる、感涙必至の大作！</p>
	<p><b>青いかいじゅうと赤いかいじゅう</b> ディビッド・マッキー/作 きたざわ きょうこ/文</p>	<p>アー二出版 1989.11 1,650円</p>	<p>戦争はなぜ起こるの？ あいとへいわのえほん</p>	<p>昔、高い山を隔てて、青いかいじゅうと赤いかいじゅうが住んでいました。お互いに友達になりたかったのですが、高い山が邪魔をして、一度もあったことがありませんでした。山に開いた穴を通しておしゃべりするのが楽しみでした。ある日、とてもささいなことからケンカになり、山をはさんでお互いを攻撃しはじめます。でも石を投げれば山が崩れることがわかったと、お互いに山を崩すことで協力します。とうとう二ひきを隔てていた高い山はなくなり、二ひきは打ち解けあうのでした。</p>
	<p><b>あおいくも</b> トミー・ウンゲラー/作 今江 祥智/訳</p>	<p>ブロンズ新社 2010.6 1,650円 注文不可</p>	<p>幼児～小中まで 色に込めた平和への思い。</p>	<p>人間の諍いを収めるため雨を降らしたあおいくも…。色にこめた平和への思いを描いた寓話。 昔、小さな青い雲がいた。雲は幸せで満ち足りていて、雨を降らせない。しかし、ある時、地上が争いごに満ちていることに気づき、心を痛めた小さな雲は大事な決心をした。 トミー・ウンゲラーが色にこめた平和への想い。『すてきな三にんぐみ』の著者&amp;訳者コンビが贈る21世紀の寓話。</p>
	<p><b>赤いボタン 火のトンネル</b> 岡本 央/写真・文</p>	<p>大月書店 2023.6 各1,760円</p>	<p>長崎～原爆投下</p>	<p>赤いボタン 長崎の被爆者竹下芙美さんと赤いボタンの物語。爆心地公園の土のなかから見つかった小さな頭の骨と赤いボタン。持ち主は原爆でなくなった女の子…。芙美さんは、被爆品や戦争の遺跡を残していこうと決めました。 火のトンネル 長崎の小学6年生がえがいた大きな原爆の絵。想像力をめいっぱい働かせてえがくなかで、子どもたちが感じたこと、考えたこと、ねがったことは―。</p>
	<p><b>あかてぬぐいのおくさんと7にんのなかま</b> イ・ヨンギョン/文・絵 かみや にじ/訳</p>	<p>福音館書店 1999 1,650円</p>	<p>「平和」ってなんだろう</p>	<p>お針箱の職人たちが本当に居たら・・・と読んでいる自分も楽しい物語。 針仕事の上手な奥さんが眠ったすきに、物差しやはさみたち7つの道具が自分の自慢を始めました。騒ぎで目を覚ました奥さんは、それを聞いて私が一番だと怒りますが……。 頭に赤い手ぬぐいをかぶっているおくさんがいて、「赤手ぬぐいのおくさん」と呼ばれていました。赤手ぬぐいのおくさんは、お針がとても上手でした。おくさんの部屋には、いつも7つの道具がありました。それはものさし、はさみ、針、糸、指ぬき、のしごて、ひのしでした。</p>
	<p><b>秋</b> かこ さとし/文・絵</p>	<p>講談社 2021.7 1,760円</p>	<p>戦時下の日本 平和への願い</p>	<p>かこさとし未発表作品、ついに刊行！テーマは、かこさんが終生、憎んでいた「戦争」。太平洋戦争のときにかこさんが体験した実話です。 構想から実に68年、かこさとしさんのオリジナル作品、ついに刊行！この作品には、戦争に断固反対し、それを子どもたちに伝え、平和を願う、かこさんの強い思いが込められています。子どもの未来を考えるすべての皆さんに、天国のかこさんからの贈り物です！</p>
	<p><b>あたごの浦</b> 讃岐のおはなし 脇 和子、脇 明子/再話 大道 あや/画</p>	<p>福音館書店 1993.3 990円</p>	<p>「平和」ってなんだろう</p>	<p>こどものとも傑作集 満月の夜、あたごの浦の砂浜に魚達が集まって、演芸会を開きます。たいやこ、ふぐやかれいが、とっておきのかくし芸を披露します。魚達のはやし声もにぎやかで愉快な讃岐の昔話。</p>
	<p><b>あなた</b> 谷川 俊太郎/文 長 新太/絵</p>	<p>福音館書店 2012.3 1,320円 注文不可</p>	<p>人間の「尊厳」とは 人とのつながりを考える</p>	<p>「わたし」はひとりですが、たくさんの「あなた」に出会い、社会そのものが「あなた」の集まりです。詩的な言葉とユーモラスな絵で、人間の本質的な疑問に答える傑作です。 「わたし」はひとりですが、おかあさんも、おとうさんも、おにいちゃんも「あなた」のひとり…。ひとりの「わたし」とたくさんの「あなた」でたすけあって生きている。詩的な言葉とユーモラスな絵で、人間の本質的な疑問に答えます。</p>

	<b>アネモネ戦争</b> 上村 亮太/作	BL出版 2020.10. 1,650円	戦争はなぜ起こるの？	ひとりの少女がかかげるものそれは、小さな「のろし」。のろしとは、大切な何かを、伝えるための合図。風によって飛んでいくアネモネの種のように、声は旅をし、誰かに届き、そして「呼びかける声」は、つながり、少しずつ増えていく…。
	<b>あの湖の あの家におきたこと</b> トーマス・ハーディング/文 ブリッタ・テッケントラップ/絵 落合 恵子/訳	クレヨンハウス 2020.11 1,980円	第2次世界大戦(ナチス・ドイツ)	作者の祖母が暮らした「あの家」。その移り変わりから見えてくる、戦争、差別、迫害と分断、愛と憎しみ。もの言わぬ市民が、もの言えぬ社会をつくる手助けをする。そして、もの言わぬ家までもまた、戦争に巻き込んでしまう。…家はずっと見ていた。ドイツで本当にあった物語。
	<b>アフガニスタンの ひみつの学校</b> ほんとうにあったおはなし ジャンネット・ウィンター/作 福本 友美子/訳	さ・え・ら書房 2022.2 1,650円	希望につなぐ アフガニスタン	かわいそうに、孫娘のナスリーンは、学校に行くことを禁じられ、両親をタリバンの兵士に連れていかれ、ひとこともしゃべらなくなりました。これはなんとかしてあげなければなりません。そのころ、あるうわさを耳にしました。家のそばの通りにある、みどり色の門。そこには学校が…女の子のための秘密の学校がある、と。
	<b>アフリカの音</b> A STORY OF WEST AFRICAN DRUM & DANCE 沢田 としき/作・絵	講談社 1996.3 1,870円	命と平和を考える	生命の連なり、大地の恵みに感謝いっばい。広大なアフリカの地に、素朴な太鼓の音が響く。自然の営みを讃美して…純朴なエネルギーを内に秘めた、魅惑的なイラストで、画家が伝える生命の物語。  この絵本に描かれている太鼓は、西アフリカのセネガル、ギニア、マリを中心とする地域で演奏されているジンバ(ジャンバ)という名まえの太鼓です。ジンバを演奏する代表的民族、バンバラ族、マリンケ族、スス族などは、赤ちゃんの誕生や結婚や収穫を祝うとき、みんなで力を合わせて動くとき、楽しむとき、祈るとき、そして心や身体の病気をなおすときなど、生活や人生のどんな場面でもジンバを演奏し、そのまわりで踊ります。そうすることで人々はたがいに、ときには自然や祖先の魂や目に見えない精霊の世界とコミュニケーションをはかり、結びつくのです。
	<b>アヤンダ</b> おおきくなりたくなかったおんなのこ ヴェロニク・タジヨ/文 バルトラン・デュボワ/絵 村田 はるせ/訳	風濤社 2018.4 1,650円	戦争をやめるには	戦争なんてだいさらい！おとうさんをなくしたかなしみにおおきくならないことをきめたアヤンダ。 コートジボワールの女性作家ヴェロニク・タジヨアフリカの戦争を憂い描かれた絵本。  戦争で父親を失ったアヤンダは、大きくなることを拒絶しました。しかし、何時までも子どものままではいられません。大きくなるということは、心の成長を現しているのでしょうか。勇気を奮い立たせれば、自分の背丈よりも大きい人間になれるのでしょうか。最後に普通の女の子に戻れたアヤンダは、アフリカでいきる人たちの英雄であったようです。
	<b>アライバル</b> Paperback Edition ショーン・タン/著 文字なし絵本	河出書房新社 2011.4 2023.4 1,980円	人間の「尊厳」とは	新たな土地に移住した者が、その土地で生まれ変わり、新生児のように成長していく。そこには過去の自分を捨てなければならない辛さと、新しい人生を歩むチャンスを手にした幸せとの両面がある。それをまるでサイレント映画のように一切の文字を使用せず表現した、究極の文字なし絵本！  世界中に衝撃を与えた「文字のない物語」。知らない土地に移り住み、新たな人生を歩む人間を、豊かな想像力と魅力的なイラストで綴ったかつてない感動の絵本。社会的分断を乗り越える書物。
	<b>ある日、戦争が はじまった</b> 12歳のウクライナ少女イェバの日記 イェバ・スカリエツカ/著 神原 里枝/訳	小学館 クリエイティブ 2023.12 1,650円	読み物:ノンフィクション ウクライナ戦争	ハルキウで戦いにさらされた避難民の少女が日記につづった「リアル」  2010年2月14日生まれ。ウクライナ北東部ハルキウ出身。祖母と一緒に暮らしていた故郷ハルキウが、2022年2月にロシアの侵襲にあう。突如として始まった戦争によるさまざまな苦難を乗り越え、ボランティアをはじめとする多くの人々による支援を得て、ハンガリー経由でアイルランドへと避難し、現在はダブリン在住
	<b>アルマ</b> の名前がながいわけ ファナ・マルティネス・ニール/作 宇野 和美/訳	ゴブリン書房 2020.10. 1,650円	人間の「尊厳」とは	「アルマ・ソフィア・エスペランサ・ホセ・プーラ・カンデラ」。……長い！でも、これがアルマの名前なんですって。アルマも思っているのです、長すぎるって。ゼーンぶ書こうとすると、紙からはみだしちゃう。  だけど、これにはこんなわけがあるのだと、アルマのパパが教えてくれます。
	<b>アレッポのキャットマン</b> アイリーン・レイサム、カリム・シャムシ・バシャ/著 清水 裕子/絵 安田 葉津紀/訳	あかね書房 2021.5 1,760円	戦いが終わっても シリア	シリアで戦争が起き、かつて美しかったアレッポの街から、たくさんの人びとのがれ、難民となった。けれども、救急車の運転手、モハンマド・アラール・アルジャリールは、にげることができない人びとを助けるために、街にのこりつづけた。そしてアラールは、助けを必要としている動物たちに気づく。道ばたにすてられ、さみしい思いをしながらおびえているねこたちに…。 世界中に「アレッポのキャットマン」として知られた救急隊員の心あたたまる物語。
	<b>アンナの赤いオーバー</b> ハリエット・ジーフェルト/文 アニタ・ローベル/絵 松川 真弓/訳	評論社 1990.12 1,430円 要在庫確認	人間の「尊厳」とは	戦争が終わったら、アンナは、新しいオーバーを買ってもらうことになっていました。戦争は終わりました。でも、お店はからっぽです。オーバーも、食べ物もなんにもありません。アンナのオーバーを手に入れるために、お母さんは、どうしたのでしょうか。  実話を元にしたお話です。 戦後の物のない時代に、一枚のオーバーを手に入れるのは大変なことでした。手間がかかること、長い間待つことをむしろ楽しみ、そして出来上がったオーバーはアンナにとってかけがえのない大切な宝物になるでしょう。家の装飾品はなくなってしまいましたが、それ以上に大切なものを手に入れたのではないのでしょうか。
	<b>アンナの戦争</b> キンダートランスポートの少女の物語 ヘレン・ピーターズ/作 尾崎 愛子/訳	偕成社 2023.9 1,870円	読み物 第2次世界大戦、ドイツ	ぼくは第二次世界大戦のころの話ききに、アンナおばあちゃんをたずねた—ドイツに住んでいた少女アンナは、ナチによるユダヤ人迫害をのがれるため、キンダートランスポート(子どもの輸送)という救援活動によってイギリスにわたった。受け入れてくれたのは、ケント州の田園地帯に住むディーンさん一家だ。ある日、アンナと二人の子どもたちは、納屋で兵士を見つけた。その兵士がドイツ語をつぶやくのをきき、三人で見はることにするが…。息つくまもないサスペンスと、深い感動に満ちた物語。

	<b>アンネのバラ</b> 40年間つないできた平和のバトン 國森 康弘/文・写真	講談社 2015.5 1,650円	希望につなぐ	平和は向こうからは歩いてこない。40年前の生徒たちが、平和のシンボルとして植えたアンネのバラ。その思いを受けついで、バラを育てる東京都杉並区立高井戸中学校の生徒たちのすがたを追った写真絵本。
	<b>いい一日ってなあに？</b> ミーシャ・アーチャー/作 石津 ちひろ/訳	BL出版 2022.6 1,760円	幼児～小中まで 「平和」って？	町を歩くダニエルに、みんなが「いい一日を！」と声をかけてくれます。「いい一日って、なんだろう？」ダニエルは、いろんな人にとずねます。みんなのいい日ってどんな日？
	<b>いえ</b> あるひ せんそうが はじまった カテリナ・ティホゾーラ/作 オレクサンドル・ブローダン/絵 すぎもと えみ/訳	汐文社 2023.9 1,870円	今も続く戦災 ウクライナ	ぼくはこのすてきな家に、パパとママと犬のテレシクとすんでいた。ある日、戦争が始まった… 2022年2月、ロシアがウクライナ侵攻を開始。「いえ」を奪われたおおげいのうちのひとり、ある少年の物語。
	<b>生きる</b> 劉 連仁の物語 森越 智子/作 谷口 広樹/絵	童心社 2015.7 2,750円	読み物 日中戦争 強制連行・北海道	1944年9月、日本軍により中国から連れ去られた劉連仁。苛酷な炭鉱労働から逃亡し北海道の山中で一人、13年間生き抜いた。奪われた人としての尊厳をとり戻すための孤独な闘いの物語。
	<b>石うすの歌</b> 壺井 栄/作 宮本 順子/絵	岩崎書店 1995.4 1,650円 注文不可	ヒロシマ原爆	瀬戸内の田舎に住む千枝子は祖母とともにお盆の準備に大忙し。…その中で広島にいる従妹の瑞枝が疎開のために里帰りするという。妹同然の瑞枝がやってくることに千枝子は大喜びして、さらに祖母と共に石臼を回す手に力を込めるのだった。やがて八月となり、瑞枝が母親(千枝子の義理の伯母)と共に家にやってきた。母親は瑞枝を置いていくと、ほかの家族のためにすぐに広島へと戻る。数日後、盆の十三日を迎えた祖母の前には物言わぬ石臼の姿があった。石臼はもう歌わない。…
	<b>石たちの声がきこえる</b> マーグリット・ルアーズ/作 ニザール・アリー・バドル/絵 前田 君江/訳	新日本出版社 2018.8 1,650円	故郷を失う	いつもオンドリの声で起きていたラーマー。かあさんのつくる朝ごはん、弟や友だちと野原であそんだ。戦争が始まると食べ物がなくなり、鳥は歌うのをやめた。家族は決心する。爆弾の落ちてこないどこかへ、何もかも捨てて……。ラーマーたちの未来は？無表情なはずの石で描かれた絵が、豊かに語りかけてくる絵本。
	<b>いのちのひろがり</b> 中村 桂子/文 松岡 達英/絵	福音館書店 2017.3 1,430円	幼児～小中まで 命を考える	たくさんのふしぎ傑作集 庭のアリも、海の魚も、人も、すべての生きものは仲間。すべての生きものの歴史をさかのぼってゆくと、38億年前地球上に生まれた、ひとつの細胞にたどりつく。わたしたちはどこからきたのか？ 壮大な「いのち」の物語。
	<b>いのちは</b> 内田 麟太郎/作 たかす かずみ/絵	WAVE出版 2014.9 1,430円	幼児～小中まで かけがえのないもの	見えないところにかくれて隠れている。かけがえのないものがきくと見つかる。大切な人に贈りたい絵本。 美しいのどかな絵と詩のような短い言葉で書かれた絵本ですが、いきていること、いのちについて、ところに響く内容で印象に残ります。
	<b>いのる</b> 長倉 洋海/写真・文	アリス館 2016.9 1,540円	人間の「尊厳」とは	何のために祈っているのだろう。神様に祈る人もいれば、先祖に祈る人もいる。でも皆、平和や健康などを大きな存在に祈っている。世界各地で著者が捉えた人々の姿と言葉。違いと共通点、そこから見えてきたものとは。 「祈り」とは何なのか。あまり「祈る」ことのない日本人にとって、さまざまな理由で「祈る」人々の様子を切り取った写真がたくさん掲載されたこの絵本は、読む人に何かを考えさせずにはいない印象がありました。印象的な写真絵本でした。
	<b>今、世界はあぶないのか？</b> 1. 難民と移民 2. 争いと戦争 3. 差別と偏見 4. 貧困と飢餓 5. 文化と多様性 6. 地球を守る 7. ルールと責任 8. 権利と平等 ルイズ・スピルズベリー/ほか文 大山 泉/訳	評論社 2017～2020 各1,650円	学習資料 戦争はなぜ起こるの？	今、世界で起きていることをみんなで考えていくシリーズ。 1. 難民と移民はどちらがうのか、支援のためにどんな活動があるのか 2. 戦争ってどうしておこるのか？ どうしたらやめられるのか？ 3. 人を差別するってどういうことだろう？ どうしたら偏見をなくせるだろう？ 4. なぜ貧しい人がいるのか、なぜ飢える人がいるのか。 5. 文化って、なんだろう？ 世界の文化には、どんなちがいがあがるの？ ちがう文化と出会ったらどうしたらいいの？ 6. 地球温暖化って、どういうこと？ どうして、おきるの？ どうしたら地球を守れるの？ 7. ルールってなんだろう？ 責任を持てる人になるには、どうすればいいの？ 8. 権利ってなんだろう？ 子どもにはどんな権利があるの？ どうしたらすべての人が平等にあつかわれるの？
	<b>イラクから日本のおともだちへ</b> 小さな画家たちが描いた戦争の10年 佐藤 真紀/文 堀切 リエ/文	子どもの未来社 2013.2 1,870円	イラク戦争ほか	イラクを攻撃して、世界は平和になりましたか？戦争前の美しい町並み、飛行機の爆撃、道を走る戦車、一度もしてもらえなかった誕生日、過酷な難民キャンプ、病院での治療、サッカーの試合、そして東日本大震災後に子どもたちが贈った日本へのメッセージ。イラクの子どもたちからの平和への伝言。

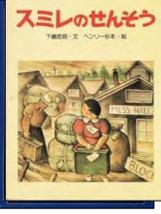
	<b>いわたくんちのおばあちゃん</b> 天野 夏美/作 はまの ゆか/絵	主婦の友社 2006.8 1,650円	被爆者の思い	被爆から60年目の2005年夏、広島の小中学校で行われた「平和学習」の時間。そこで語られた1枚の写真をもとにしたお話。 家族で、そして学校で。子どもたちといっしょに読み、考えてください。4年生の男の子の目を通して平和と家族の尊さを描く1冊の本。……実話に基づくお話です。
	<b>ウィニー</b> 「プーさん」になったクマ サリー・M・ウォーカー/原作 ジョナサン・D・ヴォス/絵 さくま ゆみこ/訳	汐文社 2016.10. 1,760円 注文不可	大切なものを守る	カナダ陸軍の獣医をしていたハリー・コルボーンは任務で移動中、駅のホームに1匹の子グマを見つけます。世界じゅうで愛される「クマのプーさん」。そのモデルになったクマの、ほんとうのお話。 世界一有名なクマ、くまのプーさんのモデルになったクマのノンフィクション絵本。A.A.ミルンの息子、ロビンが愛したロンドン動物園のクマ、「ウィニー」は陸軍中尉に拾われました。
	<b>エリカ 奇跡のいのち</b> ルース・バンダー・ジー/文 ロバート・インノチェンティ/絵 柳田 邦男/訳	講談社 2004.7 1,650円	第2次世界大戦(ナチス・ドイツ)	戦争の陰に隠された、小さないのちの奇跡 お母さまは、じぶんは「死」にむかひながら、わたしを「生」にむかってなげたのです……。第二次世界大戦中のドイツでの衝撃的な実話をもとに、戦争を考える絵本 わたしが1944年に生まれたことはたしかです。でも、誕生日がいつであるのかはわかりません。生まれたときにつけられた名まえもわかりません……。お母さまは、じぶんは「死」にむかひながら、わたしを「生」にむかってなげたのです。第2次世界大戦中のドイツで奇跡的に生きのびた、ひとりの女性の物語。
	<b>エロイサと虫たち</b> ハイロ・ピトラゴ/文 ラファエル・ジヨクテング/絵 宇野 和美/訳	さ・え・ら書房 2011.9 1,430円	故郷を失う	おとうさんとふたり、とおい町にひっこしてきたわたし。こころぼそくてしんぱいでまるでじぶんが虫になってしまったみたい。学校ではみんなにとけこめないし、町ではだれともしゃべりません。そんなわたしでしたが……。 本書は、南米コロンビアの絵本です。難民の現状を伝える絵本として国連難民高等弁務官事務所の支援を受けてメキシコで特別版が出版され、ラテンアメリカ各地で配布されています。
	<b>おうじよさまとなかまたち</b> おうじよさまとゾウとウマとイヌと ハリネズミとイモムシのおはなし アローナ・フランケル/文・絵 もたい なつう/訳	鈴木出版 2008.6 1,540円 注文不可	戦争をやめるには	食いしん坊の小さなイモムシは、平和にくらす王女さまの動物たちにとってはいやな存在。動物たちを挑発しながら、イモムシは大きく育ち、ついには怪物になってしまいました。おだやかで、自信に満ちた王女さまは、怪物になったイモムシに立ち向かって、王国に平和を取り戻しました。
	<b>Oじいさんのチェロ</b> ジェーン・カトラー/作 グレグ・コーチ/絵 タケカワ ユキヒデ/訳	あかね書房 2001.1 1,540円 注文不可	大切なものを守る	わたしの街は今、戦争にまきこまれているの。街にいるのは子供と女性と老人と病人たちだけ。とつてもこわいおもいをしているわ。ある時、いつも『オー』っておこるおじいさんが、広場でチェロを弾いてくれたの。みんな、生きてく勇気をもったみたいだった。ところがある日、爆弾がOじいさんめがけてとんできたの……。
	<b>おかあさんのいのり</b> 武鹿 悦子/作 江頭 路子/絵	岩崎書店 2015.7 1,760円	大切なものを守る 母の祈り	お母さんの子どもにける愛情、平和への願いをこめておくる歌。 わたしのあかちゃん、その手がどうか銃などにぎりませんように。世界中の子どもたちから平和をうばわないで……。母の子への愛情は万国共通。戦後70年、平和への願いをこめておくる絵本。
	<b>おかあさんの木</b> 大川 悦生/作 箕田 源二郎/絵	ポプラ社 1977 1,100円 注文不可	戦時下の日本のお母さん	発表から40年の間に、幾度も小学校の国語教科書に採用されてきた戦争児童文学の名作。戦争が人々にもたらす悲しみ、そしてそれ以上に普遍的な、「母と子の情愛」がそこにある。 戦争のために七人の息子が次々と兵隊にとられ、そのたびにキリ木を植えて、無事を祈るおかあさん。 (ポプラポケット文庫 627円 在庫有り)
	<b>おきなわ 島のこえ</b> 又チドツカカラ(いのちこそたから) 丸木 俊/文・絵 丸木 位里/文・絵	小峰書店 1984.2 1,980円	戦時下の日本子どもたち 沖縄	沖縄戦で、沖縄の人たちは3人に1人が命を失いました。 「原爆の図」の丸木夫妻が、戦争への怒りと、鎮魂と平和への願いをこめておくる絵本。 同じ日本でありながら、沖縄では日本兵は味方ではなかったという事実。同じ仲間を殺し合ったという重さ……。二人の子どもたちが捕虜収容所にたどりつくまでに、亡くした家族、出会った人々、二人が目にしたことを淡々と語っている。
	<b>おこりじぞう</b> 山口 勇子/原作 沼田 曜一/語り 四国 五郎/絵	金の星社 1979.11 1,540円	ヒロシマ原爆	広島原爆。幼いいのち、ささやかな暮らしすらうばっていった8月6日の悲劇。 1945年8月6日。広島町の町角に立つわらいじぞうが見たものは、まるで太陽が落ちてきたとしかいいようのない光景だったのです……。作家と語り部と画家が悲しみと怒りをこめて描く入魂の絵本。
	<b>おしっこぼうや</b> せんそうにおしっこをひっかけたぼうやのはなし ウラジーミル・ラドゥンスキー/作 木坂 涼/訳	セーラー出版 2003.7 1,650円 注文不可	戦争をやめるには	このおはなしは、ベルギーのブリュッセルという町にむかしからつたわるおはなしです。いったいなにがおきたのでしょうか？とにかくひとびとはちいさなぼうやの銅像をたててぼうやとそのできごとをわすれないようにしたのです。それがあの小便小僧のはじまりでした。 昔ある町で戦争がおきました。それまで幸せに暮らしていた男の子は、パパママを探して堀に登り、おしっこを……。小便小僧のエピソードです。

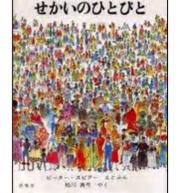
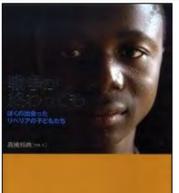
	<p><b>おとなになれなかった弟たちに・・・</b> 米倉 斉加年/作</p>	<p>偕成社 1983.11 1,320円</p>	<p>戦時下の日本の子どもたち</p>	<p>小学校4年生の〈ぼく〉の目で、戦争の哀しみをえがいた。 戦争中、10才の少年は赤ん坊だった弟のミルクをぬすみ飲み、弟は栄養失調で死んだ。子どもの目で戦争と飢えを淡々と描きます。</p>
	<p><b>おなじ月をみて</b> ジミー・リャオ/作 天野 健太郎/訳</p>	<p>ブロンズ新社 2018.10. 1,540円</p>	<p>「戦争」って？</p>	<p>台湾の国民的絵本作家ジミー・リャオが、本当に表現したかった絵本！今伝えたいメッセージ。 少年ハンハン、窓の外を見てずっと誰かをまっている。そこへ、けがをしたライオン、ゾウ、ツルがやってきて……少年がまちわびているのは誰？戦争と平和、悲しみと喜び、すべては同じ空の下で起きていることを心に刻む絵本。</p>
	<p><b>おばあちゃんとバスにのって</b> マット・デ・ラ・ペーニャ/作 クリスチャン・ロビンソン/絵 石津 ちひろ/訳</p>	<p>鈴木出版 2016 1,650円</p>	<p>「格差」「差別」と向き合う</p>	<p>雨の日曜日、ジェイとおばあちゃんはバスにのって、あるところへ向かいます。ジェイは雨が降っていることや、バスに乗ることに文句を言いますが、おばあちゃんはユーモアたっぷりの返事でジェイの視野を広げます。そして、〈ボランティアしよう〉に着いたふたりは、恵まれない人たちのために、にこやかにお手伝いを始めます。</p>
	<p><b>おばあちゃんひとりせんそうごっこ</b> 復刻 谷川 俊太郎/文 三輪 滋/絵</p>	<p>プラネットジアース 企業解散＝出版活動停止 2006.3 1,885円 注文不可</p>	<p>ちいさなつばやき ※e-honサイトより表紙画像転載</p>	<p>詩人が文を書き、三輪滋がそれに応えるカタチで製作された絵本「シリーズ・ちいさなつばやき」は1970年代に出版され、一部に熱烈なファンを生み、以後現在まで語り継がれて来た。全6冊の中でも、ひととき異彩を放ち、かつビビットな反響を生み出した谷川俊太郎とのコラボレーション。入手困難となっていた『おばあちゃん』ひとり『せんそうごっこ』が、3冊合本で再登場。発売当時に物議を醸したその内容は、21世紀の現在の私たちに何を語るのか。三輪滋渾身の描き下ろし表紙で、装いも新たに生まれ変わった“僕と世界”をめぐる3つのストーリーが、新たな読者を獲得すべく、今ここにある。</p>
	<p><b>おれはなにわのライオンや</b> さねとう あきら/作 長谷川 知子/絵</p>	<p>文溪堂 1995.7 1,650円 注文不可</p>	<p>戦時下の日本 動物園</p>	<p>戦争中、大阪の動物園にいたおとぼけで元気のいいライオンの話。 戦争中「非常時」の動物園に、はらぺこだけ元気なライオンがいました。けったいなライオンの、愉快だけど悲しい物語。</p>
	<p><b>かあさんはどこ？</b> クロード・K・デュボワ/作 落合 恵子/訳</p>	<p>ブロンズ新社 2013.2 1,540円</p>	<p>故郷を失う</p>	<p>災害、戦争、暴力、貧困…今も世界中の子どもたちが直面している、つらい出来事。「その子」はあなたであり、あなたの子ともかもしれません。壮絶な現実の中に、希望を見出すメッセージがこめられた1冊。 戦争から遠いはずの町に、突然の砲撃。恐ろしい音がどンドン大きくなって、近づいてくる。家は、めちゃくちゃに壊され、家族は誰一人いない。「母さんはどこ？みんなは？」守ってくれる大人はなく、知らない人の中にその子はひとり。走って、走って、走り続けて……</p>
	<p><b>かあちゃんのジャガイモばたけ</b> アニタ・ローベル/作 まつかわ まゆみ/訳</p>	<p>評論社 2018.9 1,540円</p>	<p>戦争はなぜ起こるの？</p>	<p>ジャガイモを作って、2人の息子を大切に育てていた母ちゃん。でも、ある日、兄ちゃんは、東の国の兵士になり、弟は西の国の兵士に…さて、賢い母ちゃんは、どうやって息子たちをとりもどしたでしょう？ 1967年にアメリカで刊行された作品が、カラー版になって再登場！アニタ・ローベルの変わることのない平和への願いを届けます。</p>
	<p><b>カイト</b> パレスチナの風に希望をのせて マイケル・モーパーゴ/作 ローラ・カーリン/絵 杉田 七重/訳</p>	<p>あかね書房 2011.6 1,320円 注文不可</p>	<p>読み物 パレスチナ</p>	<p>パレスチナの地にやってきたイギリスの映像記者マックス。彼は、丘の上のオリーブの古木の下で一心に風をつくっているヒツジ飼いの少年サイドと出会い、友だちになる。サイドは2年前におきた事件以来、しゃべることができない。その事件とは…パレスチナの空に舞う風。自分でつくった風をあげつづける少年サイドの夢とは？パレスチナの悲劇と希望をえがいた美しい物語。</p>
	<p><b>核兵器をなくすと世界が決めた日</b> 川崎 哲/解説・監修 高橋 真樹・岩崎 由美子/文 TOTO/絵</p>	<p>大月書店 2022.7 1,760円</p>	<p>希望につなぐ 核兵器禁止条約</p>	<p>2017年ノーベル平和賞を受賞したICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)を中心に、世界の核被害者たちの声と、平和を願う人びとの連帯が生んだ核兵器禁止条約。その誕生の物語を通じて、子どもたちに希望を伝える。 すべての国が核兵器の保持や使用をしないと約束する核兵器禁止条約。被爆者らの声と、市民の国際的な連帯が生んだ画期的条約の成り立ちを初めて絵本に。ウクライナ危機で核戦争の脅威が深まる中、子どもたちに希望を伝える。</p>
	<p><b>かげふみ</b> 朽木 祥/作 網中 いづる/挿画</p>	<p>光村図書出版 2023.5 1,760円</p>	<p>読み物 ヒロシマ原爆</p>	<p>ぼくはぜったいに忘れないだろう。夏の日に出会ったヒロシマの少女のことを。1945年8月6日のあの朝と現在とをつなぐ、一人の少女と「ぼく」の物語。 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館では、犠牲者の画像や記録を絶え間なくスクリーンに映し出しています。八月六日のあの朝まで広島で生きていた人々、一人一人を悼むためです。物語にも同じことができるかもしれません。「失われた声」に耳をすませ、かけがえのない「時間」を共に生きることによって、この物語の少女たちの姿が、どうかあなたの心にいつまでも残りますように。——朽木祥</p>
	<p><b>風が吹くとき</b> レイモンド・ブリッグズ/作 さくま ゆみこ/訳</p>	<p>あすなろ書房 1998.9 1,760円</p>	<p>「戦争」がもたらすもの 核戦争の恐ろしさ</p>	<p>のどかな老夫婦の日常を一瞬にして引き裂いた原子爆弾。核兵器の恐ろしさをリアルに伝える世界的ベストセラー、新訳で待望の復刊。 イギリスの片田舎に住む善良な老夫婦の、原爆を落とされる数日前から、投下後命の灯が消える直前までを描いた作品。</p>

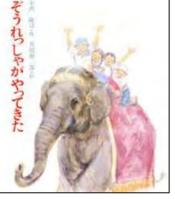
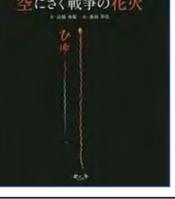
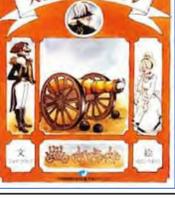
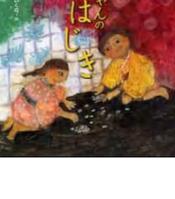
	<p><b>からすたろう</b> 八島 太郎/文・絵</p>	<p>偕成社 1955 1979 1,980円</p>	<p>「格差」「差別」と向き合う</p>	<p>学校の教室では無視されていた少年、からすたろうには、かくされた才能が。教育とは何かを問う。 学校生活の中では伺えない生徒一人一人の家庭環境。それは黒板の前では必要のないことですが、教師は熟知し考慮たうえで生徒たちを導いていくことが大切であることが伝わってきます。学習に喜びを見いだせる子どもだけが、人として存在価値があるわけでは無い事をいそべ先生は作中で静かに周囲の生徒に伝えていきます。</p>
	<p><b>カリーナのりんご</b> 今関 あきよし/原作 堀切 リエ/文</p>	<p>子どもの未来社 2012.2 1,540円</p>	<p>原爆の被害</p>	<p>きれいな森、美しい湖、木々にはリンゴのみのる村…。けれど、ここには子どもがいません。「チェルノブイリに住む悪い魔法使いが、毒をまきちらしているからよ」お母さんはそう言うけれど…。少女カリーナが見た、チェルノブイリのその後の物語。 8歳の少女カリーナは、ベラルーシの美しい村で暮らしているが、空も川も湖も放射能で汚染されている。母親は病気になる。家族はばらばらに暮らさなければならず…。少女の目を見たチェルノブイリのその後の物語。</p>
	<p><b>彼の手は語りつづ</b> パトリシア・ボラッコ/文・絵 千葉 茂樹/訳</p>	<p>あすなる書房 2001.5 1,760円 要在庫確認</p>	<p>「格差」「差別」と向き合う</p>	<p>文字を読める黒人ピンクス。文字を読めない白人シエルダン。南北戦争を舞台に2人の少年の友情を描く。 米南北戦争中に会った2人の15歳の少年の実話。ジョージア生まれの黒人少年ピンクとオハイオ生まれの白人少年セイは共に北軍兵士。戦闘で傷つき味方からはぐれてしまったところ、偶然に出会った。負傷したセイを連れて、ピンクは母親モーモーベイの住む実家に立ち寄る。セイはそこで保養し元気になるが、敵である南軍がこの家にやって来る……。</p>
	<p><b>かわいそうなぞう</b> つちや ゆきお/文 たけべ もちいちろう/絵</p>	<p>金の星社 1970.8 1,320円</p>	<p>戦時下の日本 動物園</p>	<p>戦争中、上野動物園で三頭のゾウが殺されました。これは本当にあった悲しいお話です。 戦争中に動物園の動物達がどうなったのか…？それは戦争の話などを聞く時に、聞くことのあるお話です。 でもこの話は、ぞうが亡くなっていくまでの詳細、そして飼育員さん達の姿も描かれています。戦争のために死んでいかなければならなかった動物達の哀しみ、そして死なせなければならなかった飼育員さん達の苦しみが、文章を通して痛いほど伝わってきます。</p>
	<p><b>川滝少年のスケッチブック</b> 小手鞠 るい/作 川瀧 喜正/絵</p>	<p>講談社 2023.6 1,540円</p>	<p>読み物 戦時下の子どもたち</p>	<p>おじいちゃんの絵日記で読む「戦争」と「昭和の生活」。戦争を生き抜いた91歳の「少年」の絵日記をめぐる物語。 列車内には、学校や職場へ行くとして乗っている人が乗り合わせていた。突然、「ダダダダーン」という爆音が鳴り響いて、窓から外を見ると、アメリカ軍の飛行機が間近まで迫ってきているではないか。操縦席のパイロットの表情まで見えるほど、爆撃機は近くにいる。明かに、僕らの乗っている列車を攻撃しようとしている。このままでは死んでしまう。反射的に、列車から飛び降りた。</p>
	<p><b>川とノリオ</b> いぬい とみこ/作 長谷川 集平/絵</p>	<p>理論社 1982.8 1,650円</p>	<p>読み物 戦時下の子どもたち</p>	<p>父を戦争にとられたノリオは、いままた母を原爆で失う。教科書にも収録された表題作他反戦・反原爆の思いがこめられた作品集。 ノリオという少年は、生まれたときから生活に川が関わっていた。赤ちゃんの時は、川で洗濯するお母さんおんがされる。子どもの時は、川で遊んで、濡れかけてお母さんに叱られる。どんな時でも、川はノリオを見ていた。そんなある日、お父さんは戦争に行ってしまう……</p>
	<p><b>ガンディー</b> 小さなひとりの大きなゆめ マリア・イサベル・サンチェス・ベガラ/文 アルバール・アラジャス/絵 竹中 千春/訳</p>	<p>ほるぶ出版 2021.12 1,980円</p>	<p>希望につなぐ</p>	<p>大きな心をもった小さな男の子は正しくないこと、おかしいことにはおだやかに、けれどもゆうかんに反対しました…。インド国民の父とよばれ、正義と市民の権利をもとめる人びとをみちびいたガンディー。 その生き方をやさしく伝える「はじめてよむ伝記えほん」 巻末には写真とわかりやすい解説付き。</p>
	<p><b>キーウの月</b> ジャンニ・ロダーリ/作 ペアトリーチエ・アレマーニャ/絵 内田 洋子/訳</p>	<p>講談社 2022.8 1,320円</p>	<p>希望につなぐ ウクライナ</p>	<p>ウクライナ・キーウの月は、わたしたちが見上げている月と同じ月。 世界的作家・ロダーリの絵本を、ウクライナ救援のために緊急出版。</p>
	<p><b>黄色い星</b> ユダヤ人を守った国王とデンマークの人たちの物語 カーメン・アグラ・ディーディ文 ヘンリー・ソレンセン/絵 那須田 淳/訳</p>	<p>BL出版 2021.11 1,760円</p>	<p>第2次世界大戦(ナチス・ドイツ)</p>	<p>第二次世界大戦のころ、ヨーロッパでは日に日にナチスドイツの勢力が増し、ドイツの北に位置するデンマークの国でも、人びとに暗い影を落としていました。「ユダヤ人は、全員黄色い星をつけなければならない」ナチスの命令がくだったとき、デンマークの国王、そして人びとはどうしたのでしょうか。 デンマーク国王クリスチャン10世のエピソードからつくられた物語。差別やいじめなど、今のわたしたちの身近な問題にもつながる一冊です。</p>
	<p><b>きかせてあなたのきもち</b> 子どもの権利ってしってる？ コロナ下で考えた非常時の子どもの権利 長瀬 正子/文 momo/絵</p>	<p>ひだまり舎 2021.9 1,980円</p>	<p>戦争を起こさせないために</p>	<p>子どもには、どんなときも、休む権利や、遊ぶ権利があります。 子どもには、どんなときも、一人ひとり大切にされる権利があります。 あなたは、どんな気持ち？ 非常時に後回しにされがちな子どもの気持ちにより添い、子どもの権利を考える絵本。 「気持ちと権利はつながっている」という新しい着眼点にも注目。</p>
	<p><b>「危険なジェーン」とよばれても</b> スザンヌ・スレード/文 アリス・ラターリー/絵 小林 晶子/訳</p>	<p>岩崎書店 2019.8 1,760円</p>	<p>人権を守るために</p>	<p>「こまっている人を助けたい」長い間あたためていた夢をかなえたジェーンはみんなから愛されていました。まもなく第一次世界大戦が始まってしまいます。でも、ジェーンにはわかっていました。戦争を止めるために何をすればよいか—世界の平和のために力をつくすアメリカ人女性としてはじめてノーベル平和賞にかがやいたジェーン・アダムズの生涯の物語。</p>

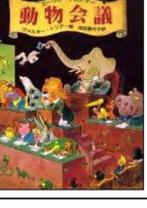
	<p><b>希望の牧場</b> 森 絵都/作 吉田 尚令/絵</p>	<p>岩崎書店 2014.9 1,815円</p>	<p>「地球」とともに生きる 福島原発事故</p>	<p>この絵本は、福島原発の警戒区域内に取り残された「希望の牧場・ふくしま」のことをもとにつくられた絵本です。「希望の牧場・ふくしま」では、餌不足の問題が深刻化していくなか、今も牛たちを生かすための取り組みが続いています。東日本大震災のあと発生した原発事故によって「立ち入り禁止区域」になった牧場にとどまり、そこに取り残された牛たちを、何が何でも守りつづけようと決めた、牛飼いのすがたを描き出します。</p> <p>闘いつづける「希望の牧場」のすがたを、「悲しみ」ではなく「強さ」をこめて絵本に残せたらと考えました。—森 絵都</p>
	<p><b>きみは、ぼうけんか</b> シャフルザード・シャフルジェルディー/文 ガザル・ファトゥラヒー/絵 愛甲 恵子/訳</p>	<p>ブロンズ新社 2024.2 1,540円</p>	<p>今も続く戦災 イラン</p>	<p>わたしとお兄ちゃんは、難民になった。戦火の21世紀を生きる、子どもたちの物語。イラン発平和へのメッセージ。</p> <p>わたしとお兄ちゃんは、戦火をのがれて「冒険」の旅にでた。「本にはね、どんな風や雨の中でも、冒険家は歩き続けます、って書いてあるよ」帽子と1冊の本を手に、幼い兄妹は破壊された家から、「冒険家の町」をめざし旅立ちます。お兄ちゃんの言葉に支えられ、たどりついたのは…。</p> <p>苦しい道を「希望」という物語に書きかえる、イラン発・平和を考える絵本。</p>
	<p><b>金のさかな</b> ロシアの民話 アレクサンドル・プーシキン/作 ワレーリー・ワシーリエフ/絵 松谷 さやか/訳</p>	<p>偕成社 2003.11 1,540円</p>	<p>「平和」ってなんだろう</p>	<p>おじいさんが33年目にして初めて捕まえた金のさかな。 金のさかながかなえてくれると言った願いは、人を幸福にしたのでしょうか？ プーシキンの手になる強烈なブラックユーモアです。</p> <p>おじいさんが助けた金の魚。強欲なおばあさんが頼むお礼は次々にエスカレートして…。愉快で示唆に富んだロシア民話の名作。</p>
	<p><b>憲法くん</b> 松元 ヒロ/作 武田 美穂/絵</p>	<p>講談社 2016.12 1,760円</p>	<p>「平和」ってなんだろう</p>	<p>芸人・松元ヒロさんは、政治風刺のコントで人気を博したコント集団「ザ・ニュースペーパー」で活躍後、1998年に独立しました。それ以来、時の政権に批判的なネタを舞台にかけ続け、全国を飛び回っています。</p> <p>ひとり芝居「憲法くん」をご存知ですか。日本国憲法施行から50年目にあたる1997年の初演以来、松元ヒロさんが機会があるごとに演じているのが「憲法くん」です。日本国憲法を人間に見立ててユーモラスに描き、その大切さを訴える8分ほどの短いネタですが、最近「憲法くん」を演ってほしいという要望がとても多くなってきたといいます。</p>
	<p><b>「けんぼう」のおはなし</b> 井上 ひさし/原案 武田 美穂/絵</p>	<p>講談社 2011.4 1,650円</p>	<p>戦争を起こさせないために</p>	<p>「きみは世界でたったひとり。だれともとりかえがきかない。だから、だいじ。一人ひとり、みんなだいじなのです。」 井上ひさしさんが小学生に語った「憲法」への思いが、絵本になりました。</p>
	<p><b>ここで土になる</b> 大西 暢夫/文・写真</p>	<p>アリス館 2015.10. 1,540円</p>	<p>「地球」とともに生きる</p>	<p>村人が全員ひっこしていても、おじいさんとおばあさんは次の世代のためにと、畑を耕し石をひろい、木を守り続ける姿を描く。</p> <p>ダムに沈むはずだった熊本県五木村(いつきむら)にある、鎮守の木、大銀杏。昔、この木の洞に入って修行したといわれる安心(あんじん)和尚の伝説と、根元によりそう村の共同墓地とともに、ひとひとの暮らしの根っこにあったふるさとの木です。</p> <p>写真家の大西暢夫さんは、1996年頃からの場所に通いつづ、村と大銀杏と、ある老夫婦を撮り続けてきました。本書はそのドキュメンタリー写真絵本。</p>
	<p><b>こども基本法 こどもガイドブック</b> FTCJ/編 平尾 潔、甲斐田 万智子、出野 恵子 中島 早苗、平野 裕二/著 まえだ たつこ/絵</p>	<p>子どもの未来社 2024.8 1,650円</p>	<p>戦争を起こさせないために 子どもの権利条約</p>	<p>こどもまんなか社会をいっしょにつくっていこう！弁護士と専門家が解説。</p> <p>第1章 読んでみよう！こども基本法 第2章 子どもの権利って？ (そもそも権利ってなに？ 「子どもの権利条約」と「こども基本法」の関係は？ ほか) 第3章 権利が守られていないときは？ (先生がクラスの子をたたいた給食を残してはいけないの？ ほか) 第4章 どうやって権利を使うの？ (権利のチケットを使ってみる行動を起こすための5つのステップ ほか) 第5章 「こども大綱」って？ (「こども大綱」ってなに？ どうやってつくれたの？子どもの意見は聴かれた？ ほか)</p>
	<p><b>子どもの権利ってなあに？</b> アラン・セール/文 オレリア・フロンティ/絵 福井 昌子/訳 反差別国際運動/監訳</p>	<p>解放出版社 2020.12 2,750円 要在庫確認</p>	<p>戦争を起こさせないために 子どもの権利条約</p>	<p>本書は、子どもが権利を持つとはどういうことかについて伝える絵本です。食べ物を得る権利に始まり、水を飲む権利、家に住む権利、学校に通う権利、暴力を受けない権利、きれいな空気を吸う権利など、たくさんの権利について取り上げています。こうした権利は地球上に住むすべての子どもが持つものです。「肌の色が違って、小さくても大きくても、お金持ちでもそうじゃなくても、この国で生まれてもほかの国で生まれても」持つ権利なのです。</p>
	<p><b>子どもの本で平和をつくる</b> イエラ・レップマンの目ざしたこと キャシー・スティンソン/作 マリイ・ラフランス/絵 さくま ゆみこ/訳</p>	<p>小学館 2021.7 1,760円</p>	<p>本を手渡す 国際児童図書評議会(IBBY)の創設に尽力</p>	<p>本を見ていれば、おながすいているのも、わすれられるかもしれません。いろんな国のお話を読んで、想像してみたら、どんなに楽しいでしょう。イエラ・レップマンは、戦争でなにもかも失ったときに、「子どもたちに笑顔をとりもどしたい」と行動をおこした人です。子どもの本の力を信じて、子どもの本で平和をつくらうと世界に呼びかけました。この絵本は、子どもたちにとって、本が、どんなにすばらしいものかを伝えていきます。</p>
	<p><b>この計画はひみつです</b> ジョナ・ウィンター/文 ジャネット・ウィンター/絵 さくま ゆみこ/訳</p>	<p>鈴木出版 2018.6 1,650円</p>	<p>原爆の被害</p>	<p>ニューメキシコの砂漠の名もない町に、科学者たちがやってきました。ひみつの計画のために、政府にやとわれた科学者たちです。計画は極秘とされ、だれひとり情報をもりません。思いもよらないものが作られているにちがひありません。もうすぐ完成しそうです。時計の針がチクタクと時を刻み…</p>
<p>トーン、日版などのサイトや出版社のサイトで確認をお願いします。</p>	<p><b>この世界の片隅に</b> 新装版(上・下) こうの 史代/著</p>	<p>コアミックス 2022.5 1,870円 (各935円)</p>	<p>原爆の被害 ヒロシマ マンガ</p>	<p>主人公すずは、広島市江波で生まれた絵が得意な少女。昭和19年、呉に嫁いだ彼女は一家の主婦として、大変な毎日でも前を向いて生きていく。だが、戦争は進み、呉はたびたび空襲に襲われる。そして昭和20年の夏がやってきた。心に染み入る日常と奇蹟の物語。</p> <p>ノバライズ:双葉文庫、双葉社ジュニア文庫 絵本:徳間書店</p>

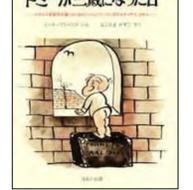
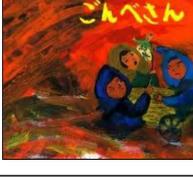
	<p><b>この本をかくして</b> マーガレット・ワイルド/文 フレヤ・ブラックウッド/絵 アーサー・ビナード/訳</p>	<p>岩崎書店 2017.6 1,650円</p>	<p>大切なものを守る</p>	<p>ばくだんが図書館にあたって、まちはもえてしまった。のこった本をつつみながらピーターのおとうさんはいった。だいじなことなんだ、ぼくらがどこからきたか…戦争がすべてをうばっていくなか、だいじなものをかくしながら、どうやってひきつづくのか。その知恵と生命力に満ちた、一冊の本が、ここにある。</p>
	<p><b>さかさま</b> 火の星と水の星 TERUKO/著</p>	<p>Gakken 2024.8 1,650円</p>	<p>戦争はなぜ起こるの？</p>	<p>向きを変えて読む(さかさまにして読む)と、まったく違う物語と価値観が展開される、驚きの絵本！ 対立しあう「火の星」と「水の星」。それぞれの言い分には、理由と正義があるのだが……。ループで拡大しても、新しい発見がある、超精緻な反転絵本。  造本装幀コンクール入賞の画期的絵本の改訂新版！！自分の「見方」だけが正しいの？視点を変えると、ちがう真実が見えてくる！ (初版 2015.5 ディスカヴァー・トゥエンティワン)</p>
	<p><b>THE LAST GIRL</b> イスラム国に囚われ、闘い続ける女性の物語 私を最後にするために ナディア・ムラド、ジェナ・クラジェスキ/著 吉井 智津/訳</p>	<p>東洋館出版社 2018.11 1,980円</p>	<p>読み物 2018 ノーベル平和賞受賞</p>	<p>2018年度ノーベル平和賞受賞者 ナディア・ムラド自伝 彼女はただ、離ればなれになった家族や友人と元の生活に戻りたかっただけだった。故郷の村に突然訪れた「イスラム国」の収奪に始まる惨劇の数々は、彼女が母からもらった大切な宝物から家族、友人、女性としての尊厳に至るまで、その全てを奪った。一やがてそれが叶わぬ現実となり、彼女は決心した。志半ばで命を落とした「声なき声」としての家族や友人達の為、死地において、命がけて彼女の逃亡を支援した勇気ある人々の為、今も人身売買や暴力の犠牲となって苦しむ全ての女性達の為。「私がイスラム国から受けたような悲惨な体験をする女性は私で最後にしたい」—無数の声なき声の代弁者として、世界中に蔓延する暴力と性暴力根絶のために戦う、一人の女性の物語である。</p>
	<p><b>サルビルサ</b> スズキ コージ/作</p>	<p>架空社 1996.8 1,650円</p>	<p>戦争とは</p>	<p>異なる民族衣装をまとった二人の兵士が、それぞれ反対方向から駆けてきて、一匹の獲物をしとめます。彼らの発する言葉は、「モジモジモジ」「ジモジモジモ」。片方が「サルビ」と言うともう一方が「ビルサ」と返す。互いの言葉が「回文」になっている。  スズキさん流の反戦絵本。想像力で読む絵本。 両軍の衝突はユーモラスでありながら、ほんのつまらないことに端を発し、それが戦争にまで発展してしまう馬鹿馬鹿しさ・愚かさを明快に描く。  「えほにずむの絵本棚」より抜粋</p>
	<p><b>3びきのかわいいオオカミ</b> ユーージーン・トリビザス/文 ヘレン・オクセンバリー/絵 こだま ともこ/訳</p>	<p>富山房 1994.5 1,870円</p>	<p>差別が見えたら、 貧富が見えたら</p>	<p>「3びきのこぶた」を裏返した寓話絵本。家を出たかわいい仔狼たちは最初からレンガの家を、果ては堅牢な鋼鉄製のシェルターを建設するが、ブタの凶悪さはそれを上回る…。筋立ては落語だが挿画は美しい一冊です。</p>
	<p><b>7年目のランドセル</b> ランドセルは海を越えて、 アフガニスタンで始まる新学期 内堀 タケン/写真・文</p>	<p>国土社 2020.6 2,200円</p>	<p>希望につなぐ</p>	<p>日本国内での6年間の役目を終えたランドセルは海を越えて、政情不安定なアフガニスタンの子どもたちへ。 写真家・内堀タケシが、「ランドセルは海を越えて」の活動を通して、アフガニスタン国内の状況や子どもたちの生き生きとした表情を伝える写真絵本。</p>
	<p><b>シッカとマルガレータ</b> 戦争の国からきたきょうだい ウルフ・スタルク/作 ステイーナ・ヴィルセン/絵 きただい えりこ/訳</p>	<p>子どもの未来社 2023.5 1,870円</p>	<p>故郷を失う 今も続く戦災</p>	<p>戦争は始まり、家族とはなれて平和な国へひとり旅立つシッカ。むかえる平和な国の家族には、マルガレータという同じ年ごろの女の子がいました。ふたりは、反発し合いますが…。スウェーデンの代表的な児童文学作家ウルフ・スタルクが、子どもたちの集団疎開を、ふたりの少女の視点からていねいに描いた絵本。</p>
	<p><b>しばてん</b> 田島 征三/文・絵</p>	<p>偕成社 1980 1,650円</p>	<p>戦争はなぜ起こるの？</p>	<p>カッパに似た化け物「しばてん」の生まれ変わりといわれる太郎のたどる運命を、深いペーソスをたたえながら描きます。  自分に都合のいい時は受け入れ、都合が悪くなると突き放す。 ひそひそ声をだんだん大きくして…立場の強い人間の一声で動かされる。 本当は自分も荷担したのに、誰かのせいにして知らん顔。 …そういった人間の身勝手さ、愚かさが描かれています。</p>
	<p><b>じゃがいもかあさん</b> アニータ・ローベル/作 今江 祥智/訳</p>	<p>偕成社 1982.7 1,540円 注文不可</p>	<p>戦争って</p>	<p>母さんのじゃがいもを食べて育った息子たちは、戦に行き敵同士となった。やがて食べ物がなくなって…。  国境の家に育った兄弟は敵と味方にわかれて戦い、傷ついて母のもとに帰ります。母親の立場から描いた説得力ある“反戦絵本”。</p>
	<p><b>出発</b> から草もようが行く 小泉 るみ子/作・絵</p>	<p>新日本出版社 2018.6 1,650円</p>	<p>戦いが終わっても</p>	<p>1945年、秋。こうしてぼくは出発した…。歩いて…歩いて…。歩いて…歩いて…。浩は、リヤカーを引きつづけました。東京の町をとおりぬけて、M市めざして一。  朝早く、浩は家を出ました。結婚が決まったねえさんの嫁入り道具を運ぶのです。焼け野原の東京、バラックの街並みを浩はリヤカーですすみます。予科練に志願して命は国にささげるのだと思っていました。死んでいった仲間の顔が浮かんで消えます。それなのに、今日からは生きろといわれても——浩は深く深く迷っていました。</p>
	<p><b>地雷のない世界へ</b> はたらく地雷探知犬 大塚 敦子/写真・文</p>	<p>講談社 2009.7 1,760円 注文不可</p>	<p>戦いが終わっても カンボジア</p>	<p>今も戦争は終わっていない。悲しいカンボジアの子どもたち。  世界中に埋まっている地雷は、8000万から1億個。毎年何千人もの人が、地雷や不発弾で傷つき、命を落としています。だれもが安心して歩ける大地を取りもどすために、今、さまざまな国で地雷探知犬たちが活躍しています。</p>

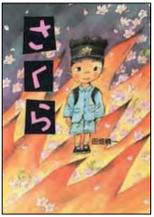
	<b>地雷をふんだゾウ</b> 藤原 幸一/写真・文	岩崎書店 2014.11 1,650円 注文不可	戦いが終わっても カンボジア	地雷の被害にあっているアジアゾウの姿を伝える、写真絵本。地雷をふんで命を落としたアジアゾウは、一万頭以上と言われています。それは、過去におきたベトナム戦争、ラオス内戦、カンボジア内戦で犠牲になったゾウたちも含まれています。この本で紹介するのは、タイ・ミャンマー国境で地雷の被害にあったゾウたちです。地雷をふんで生き残っているゾウは、現在15頭ほどと言われています。著者は現地に通い、生き残ったゾウたちのすがたをカメラにおさめました。ゾウと人間の関係を考えます。
	<b>シリアからきたバレリーナ</b> キャサリン・ブルートン/作 尾崎 愛子/訳 平澤 朋子/絵	偕成社 2022.2 1,650円	今も続く戦災 シリア	シリア人の少女アーヤは、イギリスで難民認定を待っているところだ。内戦で住めなくなったシリアを脱出し、ようやくマンチェスターに辿り着いた。途中、小さなボートで海を渡る際に父と離れ離れになり、気力を失った母を支えながら赤ちゃんの弟をつれて、毎日、難民支援センターに通っている。ある日、同じ建物にバレエ教室があることに気づく。シリアでバレエを習っていたアーヤは、そこで明るい少女ドットや先生ミス・ヘレナに出会い、踊ることで息を吹き返していく。 希望とあたたかさ人間性に満ちた、2020年「カーネギー賞」ノミネート作品。
	<b>水曜日の本屋さん</b> シルヴィ・ネーマン/文 オリヴィエ・タレック/絵 平岡 敦/訳	光村教育図書 2009.10. 1,650円	戦いが終わっても	水曜日は学校がお休み。だからわたしはいつも本屋さんへいく。するとあのおじいさんも、きまって店にきた。どうしてそんな本を読むの？ そんなに好きな本なら、どうして買わないの…。 あのおじいさん、いつも戦争の本を読んでいるけれど、どうしてそんな本を読むの……？ フランスの街角の小さな本屋さんを舞台に、本が介する少女と老紳士との心の交流を描いた絵本。少女の豊かな感受性が胸を打つ感動作。
	<b>すずばあちゃんのおくりもの</b> 最上 一平/文 黒井 健/絵	新日本出版社 2022.4 1,650円 要在庫確認	戦いが終わっても	「すずばあちゃん、花と話がでせんのかあ？」「一ばあちゃんはな、なんとでも、話がでせんう。ようぐ見れば、ずねんと声がきこえてくるもんだあ」 春になると、小さな畑にでて、自分一人分の野菜を育てるすずばあちゃん。ばあちゃんは、畑仕事がおわると、道ばたに、空き地に、花の種を植えつけている。90歳をとうにすぎ、一人暮らしのすずばあちゃん。純平には、ばあちゃんが、花と話をしているように思えた。花には、すずばあちゃんの戦争の時代のつらい思い出が。
	<b>すみれ島</b> 今西 祐行/文 松永 禎郎/絵	偕成社 1991.12 1,540円	戦いが終わっても	太平洋戦争ののち、南の海の小さな島に、ひっそりすみれが咲きました。…特攻に散った若者達と小学生の交流を愛情をこめて描く。 太平洋戦争がおわったのち、特攻機の飛んでいった南の小さな島にひっそりすみれが咲きます。声高に戦争反対を叫ぶのではなく、静かに、子どもたちに平和の重さ、いのちの尊さを語りつづ絵本です。
	<b>聖なる夜に</b> ピーター・コリンソン/作 文字なし絵本	BL出版 2000.11 1,430円	「格差」「差別」と向き合う	クリスマス・イブの晩に、ひとりのおばあさんが雪の中でたおれています。たきぎと食料を買うためのわずかなお金を、バイクに乗ったひつたくりに奪われてしまったのです。それは、奇跡がおこる特別な夜。正しい行いをした者に救いの手がさしのべられ、すばらしい贈り物がとどく、聖なる夜です。しんと降り雪の中、おばあさんを助けにあらわれたのは、教会にまつられている人形の聖人たちでした。 静かに語られる、クリスマスの奇跡。文字のない絵本。
	<b>せいめいのれきし</b> 地球上にせいめいが生まれたときから いままでのおはなし 改訂版 バージニア・リー・パートン/文・絵 いしい ももこ/訳 まなべ まこと/監修	岩波書店 1964 2015.7 1,870円	「地球」とともに生きる	<半世紀ぶりにアップグレードされた改訂版> 見開き左ページは生きものたちの進化の歴史が、右ページには舞台、その時代の地球の風景が広がります。博物館に足しげく通い、8年かけてこの本を完成させたというバージニア・リー・パートン。生きものたちの骨格や植物の葉や枝の形の細部までこだわって描かれた絵は、くまなく眺めるほどに新しい発見に出会うことでしょう。専門的な内容にもかかわらず彼女の手にかければ、地球誕生からの46億年の生命の歴史は、なんとも叙情的でファンタジックな世界。46億年前も5万年前も、200年前も25年前も、そして昨日も。この地球の上で連続と続いてきた時間のほんの一瞬。圧倒的なロマンを体感しながら、今、その時間の上に自分が、家族が、仲間がいるという不思議な奇跡に、胸は躍ります
	<b>せかいいち うつくしい ぼくの村</b> 小林 豊/作・絵	ポプラ社 1995.12 1,320円	「戦争」がもたらすもの アフガニスタン 世界一美しいぼくの村 三部作	小さなヤモは戦争にいったに皆さんのかわりに市場へさくらんぼを売りにでかけます。戦争の中でも明るく力強く生きる人々を描く。 季節は春。アフガニスタンの美しい村に住む少年が、はじめてくだものを売りに父親と市場へ出かけていく。戦争にいった兄の代わりに手伝うことになったのだ。
	<b>せかいいち うつくしい 村へかえる</b> 小林 豊/作・絵	ポプラ社 2003.8 1,320円	「戦争」がもたらすもの アフガニスタン 世界一美しいぼくの村 三部作	笛吹のミラドーは、サーカスの人たちと一緒に、世界中を旅して回っています。でも、毎日思い出すのは、なつかしいバグマンの村と、友だちのヤモのこと。 アフガニスタンの小さな村と、そこに生きる人々を描く絵本シリーズ 第3作。 長く続いた戦いがおわると聞き、ミラドーは、ヤモとすごしたなつかしい村に帰ってきたが…。
	<b>ぼくの村に サーカスがきた</b> 小林 豊/作・絵	ポプラ社 1996.11	「戦争」がもたらすもの アフガニスタン 世界一美しいぼくの村 三部作	戦争のつづくアフガニスタンの小さな村にも、秋の訪れとともにサーカスの一団がやってきました。生きることのすばらしさを描く絵本。 ヤモの国では、長い間、戦争が続いています。ヤモの兄さんも、友だちのミラドーのお父さんも、兵隊になって、戦場に出かけていったまま、帰ってきません。それでもヤモの村に、秋のある日、待ちに待ったサーカスがやってきたのです。 『せかいいち うつくしい ぼくの村』につづく、バグマンの村の物語。
	<b>世界中のこどもたちが 103</b> 平和を作ろう！絵本作家たちのアクション/著	講談社 2004.8 1,980円 注文不可	平和への願い	世界に届け、103人の平和の思い 103人の絵本作家が、世界の平和を願って、広く知られている「世界中のこどもたちが」の歌からイメージした絵が1冊の絵本になった、永遠のメッセージ本 世界にひろがれ、平和の願い。103人の絵本作家の思いがひとつになって、この1冊が生まれました。平和を作ろう！絵本作家たちのアクション。

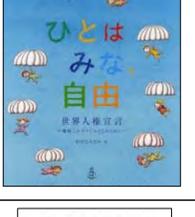
	<p><b>世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ</b></p> <p>ムヒカ/述 くさば よしみ/編 中川 学/絵</p>	<p>汐文社 2014.3 1,760円</p>	<p>希望につなぐ</p>	<p>2012年、ブラジルのリオデジャネイロで国際会議が開かれました。環境が悪化した地球の未来について、話し合うためでした。しかし、これといった名案は出ません。南米の国ウルグアイのムヒカ大統領。質素な背広にネクタイなしのシャツがたです。そう、かれは世界でいちばん貧しい大統領なのです。…身なりをかまうことなく働くムヒカ大統領を、ウルグアイの人びとは親しみをこめて「ペペ」とよんでいます。…しかし演説が終わったとき、大きな拍手がわきおこったのです。</p>
	<p><b>せかいにひとつあなたのうた</b> こどものけんりをたからかに</p> <p>ニコラ・デビス/文 マーク・マーティン/絵 西野 博之/訳</p>	<p>子どもの未来社 2024.11 1,760円</p>	<p>戦争を起こさないために 子どもの権利条約</p>	<p>あなたが生まれて歌が始まった。だけど、それが歌だと気づく人はまだいなかった。誰の耳にも聞こえなかった。あなたにはあなたの「うた」がある。そして、すべての子どもの「うた」は高らかに響き合う。子どもの権利が生かされる世界を描き出す絵本。</p> <p>すべての子どもが持つかけがえのない権利を「うた」に託して色彩豊かに描いた絵本。</p>
	<p><b>せかいのひとびと</b></p> <p>ピーター・スピーアール/作 松川 真弓/訳</p>	<p>評論社 1982.1 1,650円</p>	<p>「格差」「差別」と向き合う</p>	<p>私たちのこの地球には、いったいどんな人たちが暮らしているんだろう？ 体の大きさ、肌の色、顔の形、住んでる家、好きな遊び、話す言葉…。世界にはさまざまな民族、風習、言語、文化などがあることを、やさしく説明。それぞれがちがっていることの素晴らしさを伝える大型絵本。</p> <p>アダムとイヴの楽園からはじまり、宇宙まで広がるこの世界の様々な「ちがいを」、何度も読み返してもあきることのない精緻で丁寧に描きこまれた絵で表しています。写真で見るとはるかにわかりやすい絵は必見です。</p>
	<p>地図でスツと頭に入る <b>世界の民族と紛争</b></p> <p>祝田 秀全/監修</p>	<p>昭文社 2022.11 1,650円</p>	<p>学習資料 今起きている戦争・紛争</p>	<p>中国の少数民族弾圧、ユダヤとアラブの確執、米国のBLM旋風…世界を揺るがす人種間対立の根幹を理解するための一冊！</p> <p>ユダヤ人、アラブ人、WASP、漢族、各地の少数民族や先住民…さまざまな環境で暮らし、独自の歴史・文化を築いてきた世界の民族。多様化する現代社会においても、時に衝突の原因となるのはなぜか？その真相を地図とイラストで解説する！</p>
	<p><b>せんそう</b></p> <p>エリック・バトゥー/作 石津 ちひろ/訳</p>	<p>ほろぶ出版 2003.6 1,540円 絶版</p>	<p>戦争って</p>	<p>美しい国で平和に暮らしていた住民たち。ところがある日、ささいなことから戦争がはじまって…。戦争の愚かさや悲惨さを鋭く描く。</p> <p>あるところに、赤いお城と青いお城が並んで建っていました。そこに住む人々は、みんな大の仲良しで、楽しく平和に暮らしていました。ところがある日、ささいなことをきっかけに、戦争が始まってしまったのです…。</p>
	<p><b>戦争が終わっても</b></p> <p>ぼくの出会ったリベリアの子どもたち</p> <p>高橋 邦典/写真・文</p>	<p>ポプラ社 2005.7 1,430円 注文不可</p>	<p>イラク戦争ほか</p>	<p>『ぼくの見た戦争 2003年イラク』の著者が描く、戦争と子どもたちの物語。「自分の身体の一部や家族を永久に失ってしまったムスやギフトのような難民たち。人を殺し、傷つけ、自らも心に深い傷を負った少年兵たち。一見すると被害者と加害者という両極の立場に立つ彼らですが、視野を広げて考えてみれば、ムスもギフトもモモやフヤヤも、彼らはみな戦争の犠牲者なのです」</p>
<p>KADOKAWAのシステム障害により、書影使用申請フォームが利用できないため。 KADOKAWA、トーハン、日販などのサイトで確認をお願いします。</p>	<p><b>戦争で死んだ兵士のこと</b></p> <p>小泉 吉宏/作</p>	<p>KADOKAWA メディアファクトリー 2001.12 968円 注文不可</p>	<p>幼児～小中まで 「いのち」って？</p>	<p>シンプルな絵と文が心にひびく本。今こそ世界中の人々に届けたい、感動の1冊。</p> <p>読んだ方から、沢山の感動のお手紙が来ています！生きていて…そのあたりまえのことを思い出す。今こそ、世界中の人々に届けたい、感動の1冊！ &lt;英訳つき&gt;</p>
	<p><b>戦争は、</b></p> <p>ジョゼ・ジョルジェ・レトリア/文 アンドレ・レトリア/絵 木下 真穂/訳</p>	<p>岩波書店 2024.4 2,200円 要在庫確認</p>	<p>戦争とは</p>	<p>戦争は、何も知らない人たちの柔らかな夢に入りこむ。戦争は、物語を語れたこともない。一気づかぬうちに進行する病気のように日常をずたずたにし、野心や憎しみを糧に貪欲に育つ戦争。自らも独裁政権に抗した、ポルトガルを代表する文学者の詩とその息子による絵で、戦争の残酷な本質を描く。今こそ読まれるべき、衝撃的な絵本。</p>
	<p><b>戦争を取材する</b> 子どもたちは何を体験したのか</p> <p>山本 美香/著</p>	<p>講談社 2011.7 1,320円</p>	<p>戦争がもたらすもの</p>	<p>平和な世界は、たゆまぬ努力を続けなければ、あっという間に失われてしまう。世界の戦争を知ることで、平和への道と一緒に考えよう。</p> <p>どうして同じ人間が憎み合ったり殺し合ったりするのか、なぜ戦争がおこってしまうのか、平和のためにはどうしたらよいのか、親子で、友だち同士で話し合うきっかけになる一冊です。</p>
	<p>せんそうをはしりぬけた <b>『かば』でんしゃ</b></p> <p>間瀬 なおかた/作・絵</p>	<p>ひさかたチャイルド 2018.6 1,540円</p>	<p>戦いが終わっても</p>	<p>わたしのなまえは『イーエフ・ゴジウゴ・イチ(EF551)』。かおがにているので、『かば』とよばれました。とつきゅうれっしやとして、たくさんのおきゃくさんをのせてはしりましたが、やがてせんそうがはじまってしまい…。『かば』と呼ばれた、実在する電気機関車の物語。</p>
	<p>戦争を読む・平和を考える 19450809 <b>あの日のこと</b></p> <p>山口 美代子/文 吉澤 みか/絵 倉田 ひさし/編</p>	<p>今人舎 2023.7 1,980円</p>	<p>読み物 被爆者の思い</p>	<p>1945年8月9日、長崎での被爆、直後の機銃掃射…。92歳で今なお語り部を続ける女性の経験から、戦争の愚かさ、平和への祈りを伝える1冊。全文英訳付。</p> <p>本書は、14歳のとき長崎で被爆し、92歳(出版当時)の今も、居住する福岡県で語り部として活動する山口美代子さんの話を書き起こしたもの。絵は、同県在住の日本画家で、日頃から山口さんの語り部活動をサポートをする画家・吉澤みかさんが担当した。</p>

	<p>戦争を読む・平和を考える 19450806 <b>星は見ている</b> 藤野 としえ/作 広田 郁世/絵 紺野 美沙子/編</p>	<p>今人舎 2023.7 1,980円 注文不可</p>	<p>読み物 被爆者の思い</p>	<p>あの日、炸裂した原爆の真下に8000人もの中学生在いた…。14歳の我が子を原爆で失った母親の悲しみを伝え、平和への思いをこめた1冊。全文英訳付。 本書は、紺野美沙子主宰「朗読座」による映像・朗読作品「星は見ている～原爆でわが子を亡くした父母らの手記より～」を絵本化したもの。</p>
	<p><b>ぞうれっしゃがやってきた</b> 小出 隆司/作 箕田 源二郎/絵</p>	<p>岩崎書店 1983.2 1,430円</p>	<p>太平洋戦争 名古屋 東山動物園</p>	<p>太平洋戦争が激しくなり、やがて各地の動物園では、動物たちが次々殺されていきました。しかし、そのような中で、名古屋の東山動物園では、北王園長はじめ飼育係の人たちが、ぞうだけは何としても守り抜きたいと必死の努力を続けたのです。戦争が終わったとき、日本で生き残ったのは、東山の二頭のぞうだけでした。一九四九年、このぞうを一目見たいと願う子どもたちのために、特別列車「ぞうれっしゃ」が立たせられました。日本中から子どもたちが続々と名古屋の東山動物園を訪れます。この絵本は、この事実をまとめて生まれました。</p>
	<p>児童憲章のえほん <b>そのとおり おじさん</b> 塚本 やすし/絵・こども訳 児童憲章制定会議/制定</p>	<p>求龍堂 2017.6 1,760円 要在庫確認</p>	<p>戦争を起こさないために</p>	<p>子どもは、地球の未来をつくる大切な存在です。戦後、すべての子どもたちの幸せを願い、どうしたら幸せになれるのか、大人たちが集まって考えました。そして1951年5月5日の「こどもの日」に、「児童憲章」という「子どもと大人の大切な12の約束」を制定しました。12の約束とはどんなものなのか、子どもたちからの質問に、児童憲章をつくった「おじさん」が「そのとおり」と答えてくれます。</p>
	<p><b>空にさく戦争の花火</b> 山口 美代子/文</p>	<p>今人舎 2015.8 1,540円</p>	<p>戦いが終わっても</p>	<p>「悲惨な戦争の記憶が遠のくいま、子どもたちの五感にうったえる作品をつくりたい」「大人には、戦争を語り継いでいく義務がある」そんな思いから生まれた、戦争を語り継ぐための絵本シリーズです。テーマは「おと・におい・ひかり」。 3巻目の本書で描くのは、ひ孫から見た戦争。激戦地で戦い、生き残った人がかかえる苦しみを、子どもたちはどうとらえるのでしょうか？</p>
	<p><b>大砲のなかのアヒル</b> ジョイ・コウレイ/文 ロビン・バルトン/絵 ロニー・アレキサンダー、岩倉 務/共訳 中野 孝次/監修</p>	<p>平和のアトリエ 2002.7 1,650円</p>	<p>「戦争」って？</p>	<p>町を攻撃しようとする、大砲の中でアヒルが卵を抱いていて撃てない。将軍は市長と交渉して卵がかえるまで休戦する。その間、兵隊たちは町のパンキぬりをし、将軍は市長の家に遊びにいく。やがて卵がかえると…。 何日もかかって大砲を一台だけもって、とある町の攻撃のためにやって来た将軍と兵隊たちに困ったことが起きました。大砲の中にアヒルが巣を作って卵を産んでしまったのです。どうやって出てこないアヒルに業を煮やした兵隊が、アヒルごと撃ってしまおうといいますが、将軍はべつの大砲を借りてこようと提案し、敵である市長さんに大砲を借りに行きます。</p>
	<p><b>たったひとりの戦い</b> アナイス・ヴォージュラード/作・絵 平岡 敦/訳</p>	<p>徳間書店 2000.3 2,090円 注文不可</p>	<p>戦争をやめるには</p>	<p>その昔、長い戦争があったときのこと。赤の国と青の国も、長いあいだ戦争を続けていました。青の国の王子ファビアンは、戦争の決着をつけるため、一騎打ちに臨んだものの、成果をあげられず、父王の怒りをかい、国を追われてしまいます。軍隊も持たず、たったひとりになったファビアンが、知恵を武器にめざしたことは…。フランスの若手作家が描いた美しく力強い寓話絵本。</p>
	<p><b>たまご</b> ガブリエル・バンサン/作</p>	<p>BL出版 1986.10. 1,430円</p>	<p>戦争をやめるには</p>	<p>この1冊には子ども大人といった区分けを超えて、一人の人間に対しての強いメッセージがこめられている。何故巨卵が産み落とされたのか。何故巨鳥自らが人と戦わずして、仲間と共に無数の巨卵を産みつけ、去っていったのか。おしまいの見開きの左頁に描かれた巨鳥の眼の布さの向うに、あなたが何を讀みとるか、光なのか闇なのか…。そこに、産み落とされ増えつづける人間の象徴を見ようと、つくり出され増えつづける“核”の象徴を見ようと、如何なる“寓話”を讀みとられようか—それは読者の判断というか、讀みに委ねられている…。</p>
	<p><b>だれのこどももころさせない</b> 西郷 南海子/文 浜田 桂子/絵</p>	<p>かがわ出版 2017.4 1,760円</p>	<p>戦争を起こさないために</p>	<p>安保関連法に反対する「ママの会」コールから生まれた、わが子に語る絵本。 安保法制に反対するママの会デモコールから生まれた絵本。戦争の不安に怯えるわが子に読んで安心させたいという母親の願いを伝える。</p>
	<p><b>ちいさなしまのだいもんだい</b> スメリティ・ブラサーダム・ホールズ/文 ロバート・スターリング/絵 なかがわ ちひろ/訳</p>	<p>光村教育図書 2020.2 1,650円</p>	<p>戦争はなぜ起こるの？</p>	<p>昔あるところに、動物村がありました。たまにはもめごともありましたが、いろんな動物がいれば、それはまあ、あたりまえ。完璧ではないにせよ、みんなはおおむね満足でした。けれどあるとき、一羽のがちょうが文句を言い出しました一。</p>
	<p><b>ちいさなへいたい</b> パウル・ヴェレルレプト/作 野坂 悦子/訳</p>	<p>朔北社 2009.8 1,320円 要在庫確認</p>	<p>「戦争」って？</p>	<p>多くの人が願う、平和な世界。それなのに、戦争はなくなる。戦争と平和について、子どもと大人と一緒に考えることのできる絵本です。 子どもが戦時に兵士としてかり出され、なんとか生き延びて、ようやく戦争が終わっても、トラウマを残しながら、余生を生き続ける…</p>
	<p><b>ちえちゃんのおはじき</b> 山口 節子/作 大畑 いくの/絵</p>	<p>佼成出版社 2012.7 1,430円</p>	<p>戦時下の日本の子どもたち</p>	<p>戦争が、すべてを奪った。神楽坂の町も、人も、小さなちえちゃんも。戦争にひきさられた二人の女の子の友情。 戦火にのまれ、多くの人が亡くなった神楽坂。仲良しの女の子二人は、再会を誓って、銀杏の木の下におはじきを埋めます。 数十年後、おはじきを探しにきた、ともちゃんが見たものとは…？</p>

	<p><b>チャンス</b> はてしない戦争をのがれて ユリ・シュルヴィッツ/作 原田 勝/訳</p>	<p>小学館 2022.10. 1,760円 要在庫確認</p>	<p>故郷を失う</p>	<p>ぼくと家族が生きのびたのは、まったくの偶然(チャンス)だった。『よあけ』『あめのひ』など、日本でもよく知られる絵本作家、ユリ・シュルヴィッツ。ユダヤ人である彼が第二次世界大戦にまきこまれたのは、まだ4歳の頃でした。ナチスドイツ軍の攻撃のあと、ポーランドを脱出し、家族とともに各地を転々とした日々の生々しい記憶を、豊富なイラストとともに描き出します。</p>
	<p><b>ちょっといれて</b> さとう わきこ/作・絵</p>	<p>偕成社 1987.5 1,320円</p>	<p>差別が見えたら、 貧富が見えたら</p>	<p>おばあちゃんが木陰で本を読んでいると、次々と動物たちがずみに入ってきます。とうとう、おばあちゃんのはみ出して…。 ひらがなをおぼえた子なら、ひとりで読める字の大きな絵本。</p>
	<p><b>でたーっ</b> 内田 麟太郎/文 メグ ホソキ/絵</p>	<p>国土社 1997.7 1,540円 注文不可</p>	<p>「戦争」って？</p>	<p>目を覚ますと地球が宇宙人に囲まれていました。でたーっ、キューン、バギーン、パコーン、ぐちゃ、ぐちゃ、ぐちゃ、ぐちゃ。地球を助けたのは誰だ！！ ナンセンスの鬼才と人気イラストレーターの美しくってへんてこな絵本。</p>
	<p><b>てっぼうをもった キジムナー</b> たじま ゆきひこ/作</p>	<p>童心社 1996.6 1,650円</p>	<p>戦時下の日本の子どもたち</p>	<p>太平洋戦争末期、激しい砲火の中で、小妖怪キジムナーに助けられた沖縄の少女の物語。平和を願う絵本。 これは、沖縄に住んでいるさちこという女の子の話です。「大きな木にはキジムナーがすんでいるんだよ」おばあさんは、さちこに話してくれます。「キジムナーは、夜になると木の中から出てきて、島の周りを飛び回っているよ。さっちゃんのことも見守ってくれるさあ」。生命の尊厳と基地問題の本質を鋭く問います。</p>
	<p><b>てをつなぐ</b> 鈴木 まもる/作</p>	<p>金の星社 2017.8 1,430円</p>	<p>幼児～小中まで 「平和」って？</p>	<p>手と手と手と手が、どんどん どんどん つながって……次は 誰と手をつなぐのかな？ となりに いる 誰かと、手をつなぎたくなる絵本 次は誰の手かな？ 男の子がお母さんをつないだ手は、世界中のいろいろな人、地球上に生きるいろいろな生きものへと、つながり広がっていく。地球のうえで、皆がつながり一緒に生きていることの素晴らしさを伝える。</p>
	<p><b>桃源郷ものがたり</b> 陶 淵明/原作 松居直/文 蔡 皋/絵</p>	<p>福音館書店 2002.2 1,760円</p>	<p>日中戦争</p>	<p>古代中国の大詩人、陶淵明の『桃花源記』に基づいて再話された物語に、中国を代表する絵本画家が描いた心の安らぐ理想郷の絵本。 ある日、漁師が舟をこいで川をさかのぼっていくと、いまだ見たこともないみごとな桃の林が、兩岸にどこまでも続いています。そして、みなれない山のほら穴から微かな光がもれていました。不思議に思った漁師はほら穴に入り、そりそりと進むと、突然、目の前が開け、土の肥えた田んぼやきれいな池が現れ、楽しそうな村人に出会いました。村人の話によると、大昔、先祖が戦争を避るため、この土地へ逃れてきたということです。そして、もう何百年も外の世界と行き来していないのです。漁師が、この平和な美しい村で何日か過ごし、家に帰ろうとすると、村人は「ここで見たら聞いたりしたことは、誰にも話さないでほしい」と頼みますが……。</p>
	<p><b>父さんはどうして ヒトラーに投票したの？</b> ディディエ・デニングス/文 PEF/絵 湯川 順夫、戦争ホークの会/訳</p>	<p>解放出版社 2019.7 1,980円 要在庫確認</p>	<p>戦争はなぜ起こるの？</p>	<p>ミュンヘン近郊の町で、楽器店を営む両親と、障がいをもって生まれて来た妹と暮らす少年。彼の眼を通して、ヒトラーの台頭から、政権への反対者の逮捕、ユダヤ人差別・弾圧、障がいの隔離をはじめとしたナチスの支配、そして第二次世界大戦とナチス・ドイツの敗北までを描いた物語。 戦争が終わり、廃墟となったミュンヘン郊外の町で、兵隊から復員してきた父親に少年は、「父さんはどうしてヒトラーに投票したの？」と最後に問いかけます。</p>
	<p><b>動物会議</b> エーリヒ・ケストナー/原作 イェラ・レーブマン/原案 ヴァルター・トリアー/絵 池田 香代子/訳</p>	<p>岩波書店 1999.11 2,750円</p>	<p>戦争を起こさせないために 戦争をやめるには</p>	<p>第二次大戦が終わり、各国の首脳たちは世界平和を維持するために国際会議を重ねていますが、成果が上がりません。それを見て怒った動物たちは、自分たちで会議を開き人間たちに平和の道を示そうとします。動物たちのスローガンはただ一つ「子どもたちのために！」です。どういふ会議になるのでしょうか。</p>
	<p><b>どこにいるかわかる？</b> アジア・太平洋の子どもたちのたのしい一日 改訂新版 ユネスコ・アジア文化センター/編 松岡 享子/訳</p>	<p>こぐま社 2006.9 1,650円 注文不可</p>	<p>命と平和を考える</p>	<p>インドやタイなど20カ国の子どもたちが各国のお祭りや行事を案内してくれます。人ごみの中から主人公を探すゲームをしながら、それらの国々に自然と親しめます。 イラン・パキスタン・インド・スリランカ・バングラデシュ・ネパール・ミャンマー・タイ・ラオス・ベトナム・マレーシア・インドネシア・オーストラリア・パプア・ニューギニア・ニュージランド・日本・韓国・中国・モンゴルの20人の画家の絵が楽しめます。 日本は、松岡享子原作で絵は、西村繁男です。</p>
	<p><b>特攻花</b> 仲田 千穂/著</p>	<p>ポプラ社 2009.7 1,760円 注文不可</p>	<p>アジア・太平洋戦争 特攻隊</p>	<p>沖縄に出撃する若者たちに、娘たちが贈った「特攻花」。喜界島を訪れて9年、人々との出会い、心象をまとめた女性写真家による記録。 沖縄に出撃する若い特攻隊員たちに、娘たちは、そっと野の花を贈っていました…。NHK特集番組や各局のメディア・新聞・雑誌で紹介！女性写真家が見つめた8年間の記録。ドキュメント写真集。</p>
	<p><b>トットちゃんの 15つぶのだいず</b> 黒柳 徹子/原案 柏葉 幸子/文 松本 春野/絵</p>	<p>講談社 2023.7 1,760円</p>	<p>戦時下の日本の子どもたち</p>	<p>&lt;とうとう、トットちゃんの一日の食べものは、だいずが15つぶだけになってしまいました。&gt;『窓ぎわのトットちゃん』では描かれなかった、トットちゃんのもうひとつのお話を絵本にしました。トットちゃんの等身大の戦争体験。 日本が戦争をはじめた時代。&lt;家族そろって、安心で、うれしかった毎日&gt;から、いろいろなものがなくなっていく。そして、ある日、とうとう一日の食べものが、炒った大豆15つぶだけになってしまいました。トットちゃんは、15つぶをいつ食べるか、悩みに悩んで……。</p>

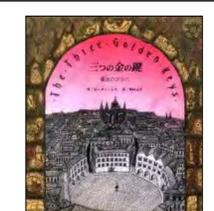
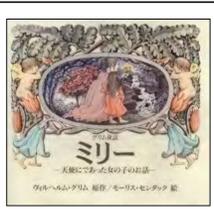
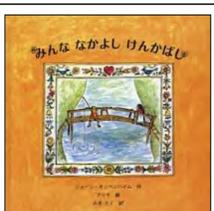
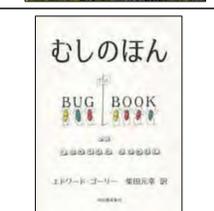
	<p><b>トビウオのぼうやはびょうきです</b></p> <p>いぬい とみこ/作 津田 櫓冬/絵</p>	<p>金の星社 1982.7 1,320円</p>	<p>命と平和を考える 核兵器</p>	<p>南の海にトビウオの親子がいました。ある日遠くの空がまっかかにそまり、水がグラッとゆれ、おそろしい音がひびいてきました。</p> <p>核爆弾の実験のために美しい海は壊れていきます。トビウオの坊やを助けて。核兵器は恐ろしい、平和を願う絵本です。</p>
	<p><b>トミーが三歳になった日</b></p> <p>ユダヤ人収容所の壁にかくされた ベジュリフ・フリッタのスケッチブックから</p> <p>ミース・パウハウス/文 ベジュリフ・フリッタ/絵 横山 和子/訳</p>	<p>ほるぶ出版 1982.10. 2,200円 注文不可</p>	<p>第2次世界大戦(ナチス・ドイツ) ユダヤ人収容所</p>	<p>トミーが3歳になった日、お父さんはケーキの絵を描いてくれた。テレビのユダヤ人収容所には絵に描いたケーキしかなかった。戦争が終わり、お父さんのスケッチブックが発見されて割られた絵本。</p> <p>トミーはチェコスロバキアにあったユダヤ人強制収容所で両親と共に暮らす男の子。お父さんは絵描きさんでドイツ軍のための製図を書いていた。</p> <p>トミーの三歳の誕生日。もしも戦争がなければ、こんな楽しみがある。もしも戦争がなければ、こんな美味しい物が食べられる。もしも戦争がなければ… もしも…お父さんの魂の叫びは、数十枚の絵となってはじけます。しかし、お父さんの絵が軍にばれて、彼はアウシュビッツに送られてそこで亡くなってしまいます。</p>
	<p><b>ともだち</b> Dear Friend</p> <p>長倉 洋海/著</p>	<p>偕成社 1998.8 1,540円</p>	<p>戦時下の子どもたち</p>	<p>フォト・ジャーナリストになって18年。世界の紛争地をめぐる、撮りためた写真を見かえすと、どのフィルムにも子どもたちの姿があった。子どもたちは、紛争地での最初の“ともだち”だった。長倉洋海写真集。</p> <p>紛争や貧困の中で、精一杯命を輝かせている(時には亡くなった幼子の)写真は、安穏と平和と安全と、純粋さを失った日本の社会構造に生きている若者たちに、「友だちになろう」と語りかけているように思えてきた。</p>
	<p><b>鳥よめ</b></p> <p>あまん きみこ/作 山内 ふじ江/絵</p>	<p>ポプラ社 2014.12 1,430円</p>	<p>戦争って</p>	<p>灯台を守る若者・周平さんのもとに若い娘がやってきました。娘は、周平さんに命を助けられたと鳥だといひ、やがて、二人は仲のいい夫婦になりました。ところが、幸福な日々は戦争の影が忍び寄り…。</p> <p>あまんきみこが、平和への深い祈りをこめて描く、美しく悲しい愛の物語。</p>
	<p><b>ななしのこんべさん</b></p> <p>田島 征彦/作 吉村 敬子/作</p>	<p>童心社 2003.6 1,650円</p>	<p>戦時下の日本の子どもたち 「格差」「差別」と向き合う</p>	<p>自らも重度の障害をもつ吉村敬子さんの力をかりて、田島征彦さんが描く戦争絵本。戦争と障害の問題を強く訴えかける。</p> <p>もも子は、まるで見わけがつかないふたごにとまどいながらも、ふたりのことが気になってしかたがなかった。ある日、小学校入学を心待ちしていたもも子のもとに(修学猶予)の通知がきた。すっかり気落ちしたもも子をなぐさめようと、ふたごはあることを思いつく。障害をもちながらも明るく生きようとするもも子に、いつしかふたごは心ひかれるようになっていった。その年の夏、夜中に空襲警報が鳴りひびいた。もえさがるほのおの中、歩けないもも子は…。</p>
	<p><b>なみだでくずれた万里の長城</b> 中国の民話</p> <p>唐 亜明/文 蔡 皋/絵</p>	<p>岩波書店 2012.4 1,980円</p>	<p>日中戦争 アジア・太平洋戦争 朝鮮戦争</p>	<p>孟姜女は、労役にとられた夫に会うために、北のはての(万里の長城)まで、ながくつらい旅にでる。</p> <p>子どものいない夫婦のもとに、ツバメによってさずけられたふしぎな少女、孟姜女。成長した孟姜女は、労役にとられた夫に会うために、北のはての(万里の長城)まで、千里を歩く旅にでます。そこで目にしたのは、自分と同じように苦しむ人々のすがたでした……。</p> <p>中国で長く語りつがれてきた民話美しい絵本になりました。</p>
<p>トーン、日版などのサイトや出版社のサイトで確認をお願いします。</p>	<p>みんなで考えたい。 <b>なんで、せんそうおわらないの？</b> ウクライナ侵攻 小学生1000のギモン</p> <p>NHKネットワーク報道部/編</p>	<p>青志社 2023.3 1,430円</p>	<p>学習資料 何で戦争をしているの？ 何で戦争終わらないの？</p>	<p>なぜ戦争をするのか、どうして終わらないのか。現地の子供たちは、大丈夫なんだろうか。そう疑問に思っ、世界で起きていることに興味を持ってこの本を手にとったのであったら、次はぜひ、ほかの地域の現状を見たり、情報を探したりしてみてください。違う国の人々を心配する、そのあたたかい思いを大切にもらえたらと思います。</p>
	<p><b>難民になったねこクンクージュ</b></p> <p>マイン・ヴェンチャーラ/文 パティ・グオ/絵 ヤズミン・サイキア/監修 中井 はるの/訳</p>	<p>かもがわ出版 2018.8 1,870円</p>	<p>大切なものを守る</p>	<p>クンクージュ 5000キロの旅 難民家族とはぐれた猫がボランティアの力で再会を果たすドキュメンタリー。子どもに親しみやすい猫を通じ難民問題を心で感じる絵本。</p> <p>そのねこは、飼い主家族とはぐれ、ひとりぼっちになってしまいました。でも、幸運なことに、心やさしく行動力あふれる人たちに助けられ、5000キロの旅をし、ついに、飼い主家族と奇跡的に再会することができたのです。難民とは？家族とは？国際支援とは？</p> <p>1びきのねこがつかないだ出会いから、あなたは、どのように感じ、考えるでしょうか？</p>
	<p>日中韓平和絵本 <b>火城</b></p> <p>燃える町 1938</p> <p>蔡 皋/文 蔡 皋/絵 アオ ズ/絵 中 由美子/訳</p>	<p>童心社 2014.12 2,750円</p>	<p>日中韓平和絵本 日中戦争</p>	<p>『火城』(かじょう)の舞台、そこはアジア・太平洋戦争中の1938年、日本軍が迫る中国の町長沙。そこに住む一人の少女の目から見た町の混乱、そして町は大火により五日間燃え続け、古い町はすべて燃え尽きてしまった…。</p> <p>日中韓平和絵本『へいわって どんなこと？』『ぼくのこえがきこえますか』『とうきび』と、このシリーズ(童心社)から発刊できなかった『花ばあば』は、ブックリスト「平和を子どもたちと考える 戦争を語り描いた絵本87冊」で紹介している。</p>
	<p>日中韓平和絵本 <b>京劇がきた日</b></p> <p>秦淮河・一九三七</p> <p>姚 紅/作 姚 月蔭/原案 中 由美子/訳</p>	<p>童心社 2011.4 1,980円</p>	<p>日中韓平和絵本 日中戦争</p>	<p>1937年、南京の少女の家に泊まった京劇役者は、少女に京劇の想い出と髪飾りを残して去って行った。戦時中の南京と人びとを描いた絵本。</p> <p>1937年、日本軍が迫る南京の秦淮河のほとりに住む少女の家に、京劇の花形役者がやってくる。シャオおじさんというその役者の発声練習を、たくさんの人たちが河の向こうで聞いていた。切符をもらった少女は、おばあちゃんとおじさんと三人で初めて京劇を見に行くが、次の公演は中止になる。ヨウおじさんは、侵略軍のためにはやらないという。そして、少女にきれいな髪飾りを渡して去っていく。その後、南京の町には日本軍の空襲が始まり…。</p>
	<p>日中韓平和絵本 <b>くつがいく</b></p> <p>和歌山 静子/作</p>	<p>童心社 2013.3 1,430円</p>	<p>日中韓平和絵本 戦時下の子どもたち</p>	<p>70年前、日本の兵隊たちはアジアの国々に何をしたのか。幼いころ、何もわからず戦争を体験した作家が、あらためて戦争とは何かを問いた。兵隊たちに履かれて海をわたり、戦場に行った靴たち。その運命をとおして、ほんとうの戦争のすがたを描き、平和を守ることの大切さをうたえる。そして、少女はいま、はっきりと自分の意志を伝える。「わたしはわたしの未来を生きていく。わたしの未来に戦争はいらない」と。</p>

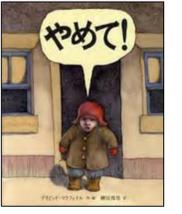
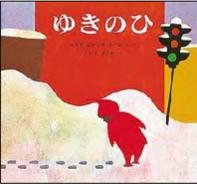
	日中韓平和絵本 <b>さくら</b> 田畑 精一/作	童心社 2013.3 1,760円	日中韓平和絵本 戦時下の子どもたち	桜の花咲く春に生まれたばかり。その年に侵略戦争が始まり、教科書も新聞も戦争の色にぬりかえられました。ぼくも桜の花のように散れ、散れと教えられます……。しかし、戦争が終わり、父を失い、多くの人が亡くなり、家族の生活は悲惨さを極めます。大人になったぼくに、桜の老木が語りかけます。「戦争だけはぜったいにいかん!」と。
	日中韓平和絵本 <b>父さんたちが生きて日々</b> 岑 龍/作 中 由美子/訳	童心社 2016.3 2,750円	日中韓平和絵本 日中戦争	中国海南島生まれの父さんは勉強が大好きで苦学して大学に進み、さらに日本の大学に留学する。そこで知り合った日本人の学友・山本さんとは兄弟のように親しくなり、学問にはげむ。そこへ日中戦争が勃発し、父さんは留学前に母親と写した写真を山本さんに贈って中国に帰る。山本さんは戦死という悲しい知らせ。戦後、山本さんのお母さんから父さん母子と山本さん母子の写った二枚の写真が送られてきて、友情の思い出がよみがえる。
	日中韓平和絵本 <b>非武装地帯に春がくると</b> イ・オクベ/作 おおたけ きよみ/訳	童心社 2011.4 2,200円	日中韓平和絵本 朝鮮戦争 「戦争」がもたらすもの	舞台は朝鮮半島。1953年の朝鮮戦争休戦協定により、南北二つの鉄条網で囲まれた「非武装地帯」。かつては人も暮らしていたのに、今は誰も住めず、出入りが制限された荒地です。地雷が埋まり、今も軍隊がにらみ合う場所ですが、人間とちがいに自由に空を渡る鳥は、ここで安心して翼を休めます。植物は青々と茂り、花は咲き乱れ、動物たちが闊歩します。  鉄条網でさえぎられ、人が立ち入れない朝鮮半島の非武装地帯は、生き物たちの最後の避難場所でもある。その四季の移ろいを見つめ続けるおじいさんの、分断された祖国の統一と、平和へのあつい思いが強く描いた絵本。
	日中韓平和絵本 <b>春姫という名前の赤ちゃん</b> ピョン キジャ/文 チヨン スンガク/絵	童心社 2017.3 2,750円	日中韓平和絵本 ヒロシマ原爆	春姫は43歳。でも赤ん坊のようにおむつをつけて横たわり、おかあさんにお世話してもらって暮らしています。徴用されたお父さんを探すため、朝鮮から広島にやってきたお母さんのおなかの中で、原爆の放射能を浴びたのです。戦争が終わって春に生まれた赤ちゃんは春姫(チュニ)と名付けられますが、放射能の影響で大きくなりません。そんな悲しい物語を3年生の女の子、由美ちゃんを目をととして描きます。
	<b>庭のマロニエ</b> アンネ・フランクを見つめた木 ジェフ・ゴッテスフェルド/文 ピーター・マッカーティ/絵 松川 真弓/訳	評論社 2016.6 1,430円	第2次世界大戦(ナチス・ドイツ) アンネ・フランク	裏庭に立つ1本のマロニエ。その木は、170年も生きてきました。かつて、木は、ひとりの少女が、生き生きと笑い、遊び、走る姿を見るのが好きでした。ある年、戦いが始まり、少女は“隠れ家”でひっそりと暮らすようになります。心のうちを、日記につづりながら、…マロニエが語る少女の物語。木は年月を経て、強風で倒れてしまいましたが、その種や苗木は、いまでも世界の国々で大切に育てられています。
	<b>バスラの図書館</b> イラクで本当にあった話 ジャネット・ウィンター/絵・文 長田 弘/訳	晶文社 2006.4 1,980円	「戦争」がもたらすもの 大切なものを守る	イラク最大の港町バスラ。この図書館は、本を愛するイラクの人々が集まってくる場所です。2003年、イラクへの侵攻が町に達したとき、一人の女性図書館員のアリアさんは蔵書を守ろうと決意し、3万冊の本を自宅に運びます。アリアさんは今も図書館再建への望みを胸に自宅の戸棚、床、冷蔵庫の中まで本に埋もれながら蔵書を守り続けています。
	<b>はだかの王さま</b> アンデルセン/作 バージニア・リー・パートン/絵 乾 侑美子/訳	岩波書店 2004.9 1,870円	「平和」ってなんだろう	『ちいさいおうち』の作者パートンによる、有名なアンデルセン童話の絵本。すうりとした王さまや、ミュージカルを思わせる美しい展開はパートン流。本当のことを言えない大人たちの姿を滑稽に描きます。  アンデルセンの王さまは、かなりおばかさんですが、パートンの描く王さまは、少しおばかさぐらいです。心優しく、見栄っ張りではあっても、王さまの都の人々は楽しく暮らしているのですから、本当はいい王さまなのです。すみずみまでユーモアにとんだ絵と、愉快でありながら、大事なことの語られるお話。
	<b>はだしのゲン</b> コミック(完全版 全7巻) 中沢 啓二/著	金の星社 2019.11~ 2020.2 24,640円 (各3,520円)	ヒロシマ原爆 マンガ	悲しみを生きる力にして、自らをふるいたたせ、戦争の本当の姿「核」の恐ろしさを伝えたい。中沢啓治の思いが詰まった1冊。  著者の体験をもとに、強く明るく生きる少年・中岡元の姿を通して、原爆の恐ろしさ、命の尊さ、そして平和への強い願いが込められた名作。  1975年 汐文社より発行、他に中公愛蔵版、中公文庫、ほるぷ版などあり
	<b>はっぴいさん</b> 荒井 良二/作	偕成社 2003.9 1,430円	幼児~小中まで 「平和」って?	はっぴいさんは困ったことや願いごとを聞いてくれるのです。山の上の大きな石の上にはっぴいさんは時々来るのだそうです。  はっぴいさん、はっぴいさん、ぼくらの願いを聞いてください。どうぞ、どうぞ…。著者が6年がりに発表する新作絵本。 のろろ男の子とあわてんぼう女の子は願い事を聞いてくれるはっぴいさんに会いに行きました。2人はちゃんと会えるのでしょうか。
	<b>はなのすきなうし</b> マンリー・ローフ/作 ロバート・ローソン/絵 光吉 夏弥/訳	岩波書店 1980 880円	「平和」ってなんだろう	スペインのある牧場で暮らす牛のフェルジナンドは、小さな頃から花が大好き。他の牛たちはマドリッドの闘牛場で勇敢に闘うことを夢見ているのに、フェルジナンドだけはひとり花の匂いを静かにかいていました。  そんなある日、闘牛を探しに牛買いたちがやってきたときのこと。フェルジナンドはいつものように木の下でのんびり花の匂いを楽しんでいましたが、偶然、お尻を蜂に刺されて大暴れ。この光景を見た牛買いたちは勇ましい牛を見つけたと喜び、フェルジナンドをマドリッドの闘牛場へと連れて行きます。闘牛場の観客席には、芳しい花をつけた女の人がたくさんいました…。  偶然から生まれた出来事がフェルジナンドを別の世界へと導きましたが、そんな状況下でもフェルジナンドは自分のままでした。
	<b>パパ・ヴァイト</b> ナチスに立ち向かった盲目の人 インゲ・ドイチュクローン/作 ルーカス・リューゲンバルク/絵 藤村 美織/訳	汐文社 2015.8 1,760円 注文不可	第2次世界大戦(ナチス・ドイツ)	ユダヤ人がユダヤ人というだけで、地獄の苦しみをあたえられていた、第二次世界大戦中のドイツ。一人の男がユダヤ人の命を救うために立ち上がりました。彼の名は、オットー・ヴァイト。彼は目が見えませんが、ナチスに立ち向かい、闘いつづけました。彼に助けられ、過酷な戦時下を生きのびたインゲ・ドイチュクローンは、「パパ」と呼んでしまったオットー・ヴァイトの功績を伝える絵本。

	<b>はらっぱ</b> 戦争・大空襲・戦後…いま 西村 繁男/画 神戸 光男/構成・文	童心社 1997.2 1,650円	戦時下の子どもたち その後	原っぱは子どもの天国だ。戦中、戦後の原っぱを舞台に遊びと環境の移り変わりを克明に描く。 「はらっぱ」を通してある町の60年間の移り変わりを描く。
	<b>パンフルトになった木</b> 巢山 ひろみ/文 こがしわ かおり/絵	少年写真新聞社 2020.8 1,540円	希望につなぐ	「明るい歌の響く世界が、ずっと続きますように」 広島の小学校で子どもたちを見守ってきた木は、楽器に生まれ変わって歌いつづけます。そのメッセージは、子どもたちの歌声によって、時をこえて未来へ… 広島出身・在住の作家が、小学校の合唱隊・パンフルト工房・樹木医・被爆体験証言者に取材。木の願いを受け継ぎ、子どもたちが平和のメッセンジャーになった奇跡の実話が、戦後75年の節目に待望の絵本になりました。
	<b>ピース・ブック</b> トッド・パール/作 堀尾 輝久/訳	童心社 2007.7 1,870円 要在庫確認	幼児～小中まで 「平和」って？	「Peace is making new friend へいわって あたらしい ともだちをつくること…」 戦争をしているアメリカで、平和教育の教材として静かなブームになっている絵本を、英文でも日本語でも読めるように出版。
	<b>ピースランド</b> 高島 純/作	絵本館 1981.2 1,320円	幼児～小中まで 「平和」って？	のどかな島「ピースランド」の一日。風のオルゴール、もじゃもじゃ頭のライオンの床屋さん、ピスケットの木、お昼寝のあとの太陽みがき… いまずぐ出かけたくくなるようなピースランドでの生活です。 「あー、こんな島に住んでみたい！」
	<b>光にむかって</b> サーロー節子 ノーベル平和賞のスピーチ サーロー節子/述 くさば よしみ/編 やまなか ももこ/絵	汐文社 2022.5 1,870円 要在庫確認	希望につなぐ	13歳で被ばくし、核兵器をなくす運動を続けてきたサーロー節子さん。世界中に核兵器の恐ろしさを力強く訴えたスピーチが、絵本になりました。 2017年、ノーベル平和賞での受賞スピーチを意識した作品。 ヒロシマで13歳の時に被爆しているだけに、言葉に重みがあります。その経験談が生々しいです。建物の下敷きになっていた時、「光に向かって這っていけ」との声掛けで助かったというのです。その言葉を、核兵器禁止への行動を呼びかける言葉としたところが印象的です。
	<b>一つの花</b> 今西 祐行/文 鈴木 義治/絵	ポプラ社 1977 1,925円 注文不可	戦争の中で	おとうさんが戦争に行く日、見おくりのプラトホームで幼いゆみ子にさしだしたいちりんの花、それは…。 (ポプラポケット文庫 627円)
	<b>ひとはみな、自由</b> 世界人権宣言 地球上のすべてのひとのために 中川 ひろたか/訳	主婦の友社 2008.11 2,750円 注文不可	戦争を起こさないために 子どものための世界人権宣言	地球上のすべてのひとのために。世界30カ国で同時刊行！世界のトップアーティストたちによるキッズ版世界人権宣言。世界のみなが楽しくなかよく幸せに暮らしていくためには、どうしたらいいんだろう？—いま、もういちど、考えなければいけないこと。 子どものための世界人権宣言の本。人が幸せに暮らすためには、世界のトップアーティストが参加し、30カ国で同時刊行。
	<b>ヒナゲシの野原で</b> 戦火をくぐりぬけたある家族の物語 マイケル・モーパーゴ/作 マイケル・フォアマン/絵 佐藤 見果夢/訳	評論社 2021.8 2,200円	第2次世界大戦 ベルギー	フランダースの野にヒナゲシの花がゆれる、何れも何れもならば十字架の間に…のどかなベルギーのフランダースの野では、かつてはげしい戦争がありました。今や不発弾や、兵士たちの持ち物がたくさん見つかるといいます。そのヒナゲシ野原の近くに住むマルテンスの一家には、大切な宝物がありました。それは、一枚の紙に書かれた詩の習作。フランダースでの戦いをうたい、戦後、世界じゅうで読まれるようになった詩です。一家にまつわる思い出をたどりながら、戦争と人びとのかかわりをえがく奇跡のような物語。巻末では、なぜ、ヒナゲシの花が、戦没者追悼の役割をになうようになったかが語られています。
	<b>被爆者 60年目のことば</b> <b>続・被爆者 70年目の出会い</b> 会田 法行/写真・文	ポプラ社 2005.7 1,430円 2015.7 1,650円	ヒロシマ・ナガサキ 原爆の被害	いま、聞かなければならないと思った。子どもたちに伝えたいと思った。ヒロシマ・ナガサキで被爆してから60年目。6人の被爆者を描いた写真絵本。戦争、平和、生きることを静かに語る。 『被爆者 60年目のことば』から10年。被爆者のみなさんの高齢化が進む今、継承していくことの大切さを描いた写真絵本。何度も何度も被爆体験を聞いては、何度も何度も想像することをくりかえしました。平和への思いをつなげるために。
	<b>111本の木</b> リナ・シン/文 マリアンヌ・フェラー/絵 こだま ともこ/訳	光村教育図書 2021.1 1,540円	「地球」とともに生きる	インドに、女兒の誕生を111本の木を植えて祝う村があります。ジェンダー平等を提唱することのエコロジー活動により、村は豊かな自然を取り戻しました。女兒に学ぶ機会を与え、児童婚から守るために行動した村長を描く実話。 インドは、女の子が生まれたらひと財産無くなる、と聞いたことがあり、また、なにかにつけて、女性の地位がすごく低く設定されているのは知っていましたが、そんな現実を、木を植えることで変えていった村長さんのお話。
	<b>ヒロシマに原爆がおとされたとき</b> 大道 あや/著	ポプラ社 2002.7 1,815円	ヒロシマ原爆	あの日、わたしはあの飛行機、みとるんですよ。「あーれ、おかあさん、B29が飛んでるけど、警戒警報でなんじゃったよねえ、こりゃあ爆弾おとすよ」とゆうたと同時に、ドカーン、パチパチ…ゆうてね、わからなくなった。丸木位里の妹、大道あやが語るヒロシマの絵本。CD付き。 今まで語られなかったヒロシマの原爆を、作者が、子どもたちへ語り残しておきたい、という思いをこめて描く。

	<p><b>瓶に入れた手紙</b> ヴァレリー・ゼナッティ/作 伏見 操/訳</p>	<p>文研出版 2019.4 1,650円</p>	<p>読み物 パレスチナ問題</p>	<p>イスラエルに暮らす少女、タル。ある日、彼女の家の近くで、パレスチナ人による自爆テロが起こる。このテロをきっかけに、タルは、「憎しみ」ではなく「希望」を見出すために、パレスチナ人に手紙を送ろうと考えた。ガザの海で、瓶に入ったその手紙を受け取ったのは…。</p>
	<p><b>プーさんとであった日</b> 世界でいちばんゆうめいなクマの ほんとうにあったお話 リンジー・マティック/文 ソフィー・ブラッコール/絵 山口 文生/訳</p>	<p>評論社 2016.8 1,650円</p>	<p>大切なものを守る</p>	<p>世界じゅうで愛されているクマのプーさん。プーさんは、ほんとうにいたクマなんです！ハリリー・コールボーンという獣医師が、戦地にむかうとちゅうでであったいびきのコグマ、ウィニー。コグマは軍隊のマスコットとなり、やがて、海をこえてイギリスにわたります。ロンドン動物園にあずけられ、クリストファー・ロビンという少年となかよくなって…そこから、名作『クマのプーさん』が生まれたのです。</p>
	<p><b>ふたりではんぶん</b> 五味 太郎/作</p>	<p>絵本館 1991.6 1,320円</p>	<p>幼児～小中 分け合う</p>	<p>ひとつのお菓子を分ける時、子どもって大変！ぜひ、そんな時この絵本を開いてみて下さい。 「こんな分け方あったんだね。」「なるほど、これも半分だね。」「分ける」という事が、こんなに多様だったなんてちょっと「哲学」です。親子で新鮮なおどろきと楽しい時間を、どうぞ。</p>
	<p><b>ふりそでの少女</b> 松添 博/作・絵</p>	<p>汐文社 1992.2 1,602円</p>	<p>長崎原爆 長崎平和絵本シリーズ 6</p>	<p>長崎原爆資料館の「ふりそでの少女像(未来を生きる子ら)」のもとになる、長崎原爆の象徴的なエピソードを描いた絵本。 長崎の町は原爆によって壊滅的な被害を受けました。被爆者での中に原爆被爆者療養センターの所長を務める松添博さんは、焼け野原のなか、美しい晴れ着姿に薄化粧をした二人の少女が、火葬されようとする場面に遭遇します。松添さんはその光景を忘れられず、少女たちの姿を一枚の絵に描きとめます。それをきっかけに、少女を知る人物が次々と名乗りあげ、やがて、二人の少女の生前の姿が明らかになります。 長崎平和絵本シリーズ 1～5 絶版</p>
	<p><b>ブルムカの日記</b> コルチャック先生と12人の子どもたち イヴォナ・フミエレスカ/作 田村和子・松方路子/訳</p>	<p>石風社 2012.11 2,750円 要在庫確認</p>	<p>人間の「尊厳」とは 第2次世界大戦(ナチス・ドイツ)</p>	<p>ワルシャワ市クロフマルナ通り92番地、孤児院「ドム・シェロト」。かつて、ここにはコルチャック先生、ステファ先生、そして200人の子どもたちが暮らしていました。200人の子どもたちの中には、この本の主人公であるブルムカをはじめ、銀色の魚の命を救ったジグムシ、まるで真っ暗な夜に明かりを灯すように上手にお話をしたレギンカ、自分の耳の中でえんどう豆を育てたポーラ、アリエをいじめて「子ども裁判」にかけられたハイメク、ほうろうのおまろで石炭運びをした毛布ちゃんがありました。そんなこと全部をブルムカは日記に書きました。なんて書いていいかが言葉がみつからないときには、絵をかきました。でも、ある日、戦争が始まってしまいました…</p>
	<p><b>ベイビーレボリューション</b> 浅井 健一/文 奈良 美智/絵</p>	<p>クレヨンハウス 2019.2 1,980円</p>	<p>希望につなぐ</p>	<p>ある日とつげん、世界中のあかちゃんたちが、はいはいして外へ出た！ビルの谷間もジャングルの奥地も、元気にはいはいしていく姿に、大人たちはびっくり。そしてあかちゃんたちは、ついに戦争地帯へ…。浅井健一さんのバンド「SHERBETS」による2005年発表の曲「Baby Revolution」。いまこそ響かせたいLOVE &amp; PEACEなメッセージを、奈良美智さんの絵でまっすぐに！</p>
	<p><b>平和の種をまく</b> ボスニアの少女エミナ 大塚 敦子/写真・文</p>	<p>岩崎書店 2006.5 1,650円</p>	<p>希望につなぐ ボスニア戦争</p>	<p>戦争は他人事じゃない。どうしたら戦争を防げるのかをやさしく問いかける、ボスニア戦後10年目の姿を写した写真絵本。 日本から眺めていたときは、あれほど遠い国だと思っていたボスニアで、つくづく実感したのは、「ボスニアの戦争は決して他人事ではない」ということです。民族の対立という点だけに目を奪われると、ボスニアのような多民族国家ではない日本には関係ない話、となってしまいます。けれど、著者が現地で学んだのは、どの国にも通じる普遍的な事実でした。</p>
	<p><b>へいわのうた</b> サム・ウィリアムズ/文 ミク・モリウチ/絵 中川 ひろたか/訳</p>	<p>講談社 2006.2 1,760円 注文不可</p>	<p>幼児～小中まで 「平和」って？</p>	<p>ぼくたちは、笑っていいし、歌っていい。手をつないでいいし、愛し合っていい。平和って、こういうこと。 みんなで 歌おう 平和の 歌を いろんな声で、いろんな場所で、いろんな時に、歌おうみんな平和の歌を。みんなそれぞれ違うけど、世界はいろいろ、世界は友だち。だから歌おう、平和の歌を。</p>
	<p><b>ペリリュー</b> 楽園のゲルニカ(全11巻) 武田 一義/著 平塚 証緒/原案協力</p>	<p>白泉社 2016.7～ 2021.7 7,260円 (各660円)</p>	<p>太平洋戦争 ペリリュー島 マンガ</p>	<p>昭和19年、夏。太平洋戦争末期のペリリュー島に漫画家志望の兵士、田丸はいた。そこはサンゴ礁の海に囲まれ、美しい森に覆われた楽園。そして日米合わせて5万人の兵士が殺し合う狂気の戦場。当時、東洋一と謳われた飛行場奪取を目的に襲い掛かる米軍の精鋭4万。迎え撃つは『徹底持久』を命じられた日本軍守備隊1万。祖国から遠く離れた小さな島で、彼らは何のために戦い、何を思い生きたのか——！『戦争』の時代に生きた若者の長く忘れ去られた真実の記録！</p>
	<p>えほん <b>北緯36度線</b> 小林 豊/作・絵</p>	<p>ポプラ社 1999.8 1,430円</p>	<p>希望につなぐ</p>	<p>東京から地球を西へ。トウキョウ、キョンジュ、シーアン、パミール、バグマン、ヘラート、アナトリア、ボスポラス、エーゲ海、地中海、北緯36度線上にくらすひとびとをたずねる幻想の旅。 日本から中央アジアへ。北緯36度線上のさまざまな土地でくらす人々をたずねる心の旅を通じて、国境を越えた人間の繋がりを考える。</p>
	<p><b>ぼくが子どものころ戦争があった</b> 「いくさの少年期」より 田中 幹夫/原作 寮 美千子/文 真野 正美/絵</p>	<p>ククリン社 2024.7 2,420円</p>	<p>戦時下の子どもたち</p>	<p>ぼくたちは、戦争のない国を作ります。きつときつと、作ります。「日本は神国。絶対に勝ちます」と始まった太平洋戦争。南方を植民地にして豊かになるはずが、暮らしはみるみる貧しくなり…たった4年で大切なものも人も、いやおうなしに奪われていった田中幹夫少年の実話です。戦争体験を語る最後の世代からこれからの日本をつくる世代へどうしても伝えたいこと。</p>

	<p><b>ぼくからみると</b> 高木 仁三郎/文 片山 健/絵</p>	<p>のら書店 2014.7 1,650円</p>	<p>「地球」とともに生きる</p>	<p>夏休みのある日、昼下がりのひょうたん池。おなじ時を生きるたくさんの命。つりをする少年から見ると、池のさかなから見ると、空のどんびから見ると、あまがえるから見ると……いろいろな視点から見ると、ちがうものが見えてくる。</p> <p>それぞれの見た風景を、片山健さんが迫力のある油絵で描きます。観察し、想像しながら、子どもから大人まで読んでほしい絵本です。</p>
	<p><b>ぼくたちのことをわすれないで</b> ロヒンギャの男の子ハールンのものがたり 由美村 嬉々/作 鈴木 まもる/絵</p>	<p>佼成出版社 2024.6 1,650円</p>	<p>今も続く戦災 ミャンマー：ロヒンギャ</p>	<p>ミャンマーのラカイン州に暮らす少数民族、ロヒンギャの人たちに起きたこと、今もなお難民キャンプでつらい生活を送る子どもたちの現状を伝える絵本。少年の瞳の奥にやどる哀しみ……その理由とは。「世界で最も迫害された少数民族」と呼ばれる人々からのメッセージ。</p> <p>ぼくの名前はハールン。ミャンマーで生まれた。でも今、バングラデシュの難民キャンプにいるんだ。ぼくの話聞いてくれる……？ミャンマーのラカイン州に暮らす少数民族、ロヒンギャの人たちは、2017年8月に国内で大規模な迫害を受け、今も約100万人が難民キャンプで暮らしています。その中の一人、ハールンという少年が体験を語ります。</p>
	<p><b>僕たちは星屑でできている</b> マンジート・マン/作 長友 恵子/訳</p>	<p>岩波書店 2024.1 2,420円</p>	<p>今も続く戦災 アフリカ：エリトリア</p>	<p>高校生のナタリーはドーバー海峡横断泳へのチャレンジを決心する。難民支援の募金活動のためだ。そのときサミーは、アフリカの独裁国家エリトリアから逃れ、命がけで海外に逃げた。運命のいたずらが痛みを抱えたふたりを結びつける。そこに希望は生まれるのか。</p>
	<p><b>ボクの穴、彼の穴。</b> デヴィッド・カリ/著 セルジュ・ブロック/著 松尾 スズキ/訳</p>	<p>千倉書房 2008.12 1,650円</p>	<p>戦争はなぜ起こるの？</p>	<p>英語で「A book about peace」と紹介される本書は、戦場の塹壕に取り残され、お互いの恐怖と疑心暗鬼にさいなまれる2人の兵士の物語です。</p> <p>相手も同じ人間なんだと本当に理解できたら、兵士にとって戦争なんて虚しいものではないだろうか。そんなことをしみじみと考えさせられる絵本です。</p> <p>でも、一人で考える時間があったから、兵隊さんはたどり着いたのです。教え込まれたことを信じるうちは、敵はオオカミなのです。こっちは殺らなきゃ殺られてしまう…。戦争は恐怖との闘いでもあります。</p>
	<p><b>ぼくのとってもふつうのおうち</b> 「ふつう」のくらしをうばわれた なんみんのはなし コンスタンチン・ザテューポ/作 藤原 潤子/訳</p>	<p>かけはし出版 2023.12 1,980円 要在庫確認</p>	<p>今も続く戦災</p>	<p>もしもある日突然、慣れ親しんだ日常生活のすべてを奪われ、難民になってしまったら？ 思いがけずそんな状況に置かれた子どもたちの、決してかなわぬ夢を描く切ない物語。世界各地で戦争が続く今、絵本で戦争と平和について考えてみませんか？ 難民への深い共感にあふれた名作。ウクライナ難民との交流から生まれた物語。</p>
	<p><b>ぼくが見た戦争</b> 2003年イラク 高橋 邦典/写真・文</p>	<p>ポプラ社 2003.12 1,430円 注文不可</p>	<p>イラク戦争ほか</p>	<p>あの戦争はいったい何だったのか。ボストン・ヘラルド紙のカメラマンとしてイラク戦争取材した著者。カメラが迫った、戦争の現実。</p> <p>戦場では人の死がとてつもなくそばにある。日本では、とても考えられない光景だけだ。—アメリカ軍に従軍した日本人カメラマンの記録。</p>
	<p><b>ぼくは、チューズデー</b> 介助犬チューズデーのいちにち ルイス・カルロス・モンタルバン/文 プレット・ウィッター/共著 ダン・ディオン/写真 おびか ゆうこ/訳</p>	<p>ほるぷ出版 2015.5 1,540円</p>	<p>戦いが終わっても</p>	<p>介助犬チューズデーの目から見た、ユーザーのルイスとの暮らしを伝える写真絵本。介助犬の役割、仕事、人との絆がよくわかる。</p> <p>戦争で大きなけがをしたルイスは、これまでと同じ暮らしができなくなってしまいました。そんなルイスを助けてくれたのが、介助犬のチューズデーでした。ルイスとチューズデーは、どんな暮らしをしているのでしょうか？</p>
	<p><b>ぼくはにんげん</b> おもいやりってだいじだね スーザン・ヴェルデ/文 ピーター・レイノルズ/絵 島津 やよい/訳</p>	<p>新評論 2020.6 1,320円 要在庫確認</p>	<p>戦争を起こさないために</p>	<p>タイトルを見て、「何を当たり前のこと言ってるの？」と思われたかもしれません。でも、本当にそれは「当たり前」のことでしょうか。「人間であること」「人間として生きること」とはどういうことなのか、子どもにきかれて即答できる大人は、はたしてどれくらいいるのでしょうか？</p> <p>「人間性」を擬人化したキャラクターである「ぼく」が、ときに傷つきながら、ものごとをつねに思いやりと共感の視点からとらえなおすことで前進する様子が描かれます。ずばりと本質をつく簡明な文章と、絵の力強い描線・炸裂する色彩がみごとにマッチし、人として生きること、互いに支え合うことの喜びと希望が高らかに謳いあげられます。</p>
	<p><b>ぼくはほんやさんになる</b> 菊池 壮一/作 塚本 やすし/絵</p>	<p>二コマ 2021.7 1,650円</p>	<p>大切なものを守る</p>	<p>ぼくのおじいちゃんとおばあちゃんは、本屋さん。パパとママは外で働いているので、ぼくは学校が終わると本屋さんで働きます。おばあちゃんに絵本を読んでもらったり、おじいちゃんに忙しそうに働く姿を見たり、ときにはキャッチボールやサッカーで遊んだり。でもある日、「(おじいちゃんもおばあちゃんも)そろそろ、本屋さんをやめようと思うんだ」というパパの言葉に大きなショックを受けて、ぼくはある決心をします……。</p> <p>日本の街の本屋さんへ「がんばれ！」というエールを込めて！</p>
	<p><b>僕らは戦争を知らない</b> 世界中の不条理をなくすためにキミができること 小泉 悠/監修</p>	<p>Gakken 2024.2 5,940円</p>	<p>なぜ戦争は起こるの？ 戦争は遠い国の話じゃない 争いのない世界のために</p>	<p>第1章 なぜ戦争は起こるの？—ロシアとウクライナを例に考える (マンガ) 僕らは戦争を知らない、なぜ戦争は起こるの？、ロシアってどんな国？ ほか)</p> <p>第2章 戦争は遠い国の話じゃない (マンガ) 日常が奪われる不条理、日本も昔は戦争をしていたの？ どうやって戦争が終わったの？ ほか)</p> <p>第3章 争いのない世界のために (マンガ) 僕らにできること、平和って何？、国連って何？ ほか)</p> <p>マンガ エピローグ 平和への希望</p>
	<p><b>本当の戦争の話しよう</b> ティム・オブライエン/著 村上 春樹/訳</p>	<p>文藝春秋 1998.2 858円 (文春文庫)</p>	<p>読み物 戦争とは？ 1990.10 発刊</p>	<p>木陰から一歩踏み出したとたん、まるでセメント袋のように倒れた兵士、日ざかりの小道で呆然と「私が殺した男」を見つめる兵士、祭の午後、故郷の町をあてどなく車を走らせる兵士……。凶々しい現実に向かうとき、われらもまた彼らと同じ、一人の兵士ではないのか？ 悲しく、激しい、22の物語。</p> <p>日ざかりの小道で呆然と、「私が殺した男」を見つめる兵士、木陰から一歩踏み出したとたん、まるでセメント袋のように倒れた兵士、祭の午後、故郷の町をあてどなく車を走らせる帰還兵……。ベトナムの「本当の戦争の」話とは？ O・ヘンリー賞を受賞した「ゴースト・ソルジャーズ」をはじめ、心を揺さぶる、衝撃の短編小説集。胸の内に「戦争」を抱えたすべての人におくる22の物語。</p>

	<p><b>まっくろネリノ</b> ヘルガ＝ガルラー/作 矢川 澄子/訳</p>	<p>偕成社 1973 1,100円</p>	<p>幼児～小中まで 「ちがいで」って？</p>	<p>からだが真っ黒のネリノはきれいな色した兄さんたちに遊んでもらえずにひとりぼっち。だからいつも考えます。「どうしたらきれいになれるのかなあ？」</p> <p>まっくろネリノは兄弟の鳥たちにも仲間はずれにされて、いつもひとりぼっち。しみりと味わい深く、ソフトなパステル画で描く。「みんなと同じこと」とか「他人の人と比べて」とか、そんなのはどうでもよくなって、みんなと違っててもいい、個性があるって素敵なことなんだ、というメッセージがこめられている、奥深い絵本。</p>
	<p><b>魔法のことば</b> エスキモーに伝わる詩 柚木 沙弥郎/絵 金関 寿夫/訳</p>	<p>福音館書店 2000.4 1,650円 要在庫確認</p>	<p>「地球」とともに生きる</p>	<p>エスキモーの人々に伝わる一篇の詩をもとに生まれた、美しく、楽しく、そしてなんとも不思議な絵本。人と動物の区別がなかった大昔、みんなが同じことばをしゃべっていました。そのとき、ことばは、「魔法のことば」だったのです。ことばは、かつて霊的な魔力をもっていて、ことばを口に出して言うだけで、何かがおこりました。そんな、おらかな生命力に満ちた世界が、シンプルで力強い絵と言葉で鮮やかに描かれています。</p>
	<p><b>ママとマハ</b> パレスチナに生きるふたり 高橋 美香/文・写真</p>	<p>かもがわ出版 2023.1 1,980円</p>	<p>パレスチナ難民キャンプ</p>	<p>パレスチナに生きる女性たちのちいさな願い、祈り、声。バスマ(ママ)は分離壁が造られ土地を奪われてしまったピリン村に、マハはたび重なる軍事侵襲に苦しめられているジェニン難民キャンプに暮らしています。わたしたちと同じように、懸命に生きているママとマハ。「いつかいっしょにお茶を飲もう」という願いは、果たして叶うのでしょうか。</p> <p>2人の女性、インムハミース(ママ)とインムカマル(マハ)が互いに語りかけ合いながら描く、パレスチナに生きる人びとの暮らし。あまり描かれることのない、女性たちの思いを日常写真とともにお届け。</p>
	<p><b>マララのまほうのえんぴつ</b> マララ・ユスフザイ/作 キャラスケット/絵 木坂 涼/訳</p>	<p>ポプラ社 2017.12 1,650円</p>	<p>人権を守るために</p>	<p>マララさんがなぜ女性の教育の問題に関心をもち、行動にうつすことができたのか。国連での講演にいたるまでの物語。</p> <p>このままじゃなにもかわらない。だれかがこえをあげなくちゃ。まって…、だれかじゃなくて、わたし？パキスタンの小さな村にくらすごくふうの女の子が、言葉で世界を変えた真実の物語。史上最年少ノーベル平和賞受賞者マララ・ユスフザイさん初の自伝絵本！</p>
	<p><b>みずうみにきえた村</b> ジェーン・ヨーレン/文 バーバラ・クーニー/絵 掛川 恭子/訳</p>	<p>ほるぶ出版 2020.1 2,090円</p>	<p>「地球」とともに生きる</p>	<p>あたりまえのように感じていた、自然のすばらしさや、やすらぎを与えてくれた故郷の村が、ダム建設のため、水の底に沈められてしまった、そのようなすを、ひとりの少女の目を通して、叙情的に描いた作品。</p> <p>私たちの村は湖になった—何もかもすっかり、水の底に沈んでしまった。失われた故郷のすばらしい自然と、やすらぎに包まれた幼い日々を描く。</p>
	<p><b>三つの金の鍵</b> 魔法のブラハ ピーター・シス/作 柴田 元幸/訳</p>	<p>BL出版 2005.3 2,640円</p>	<p>「平和」ってなんだろう</p>	<p>ぼくが乗った気球は、荒れ狂う嵐にさらわれ、ブラハの街に舞い降りた。どこからともなく、現われた不思議な猫。その猫について、ぼくは街をさまよひ、街にまつわる伝説を読み進めてゆく。読み終わるたびに、ぼくの手には金の鍵が残されて……。</p> <p>魔法と幻想の街、ブラハの夢と闇を、ブラハ育ちのピーター・シスが描いた傑作。</p>
	<p><b>ミリー</b> 天使にであった女の子のお話 ヴィルヘルム・グリム/原作 モーリス・センダック/絵 神宮 輝夫/訳</p>	<p>ほるぶ出版 1988.12 1,980円 注文不可</p>	<p>「戦争」がもたらすもの</p>	<p>むかし、のどかな村のはずれに、小さな女の子と母親がひっそりとくらしていました。ある日、村に恐ろしい戦がやってきたため、母親は森の奥深く、女の子を逃がすことにしたのです。「3日たったら、もどっておいで…」女の子は森の中で不思議なことにあひます。</p> <p>1816年、ヴィルヘルム・グリムが、ミリーという少女にあてた手紙のあとに、このお話が書かれていました。まさに150年ぶりに発見されたグリム童話に、すぐれた絵本作家、モーリス・センダックが5年がかりで絵をつけたのが、この本です。</p>
	<p><b>みんななかよしけんかばし</b> ジョン・オッペンハイム/作 アリキ/絵 三木 卓/訳</p>	<p>童話館出版 2016.10. 1,540円 要在庫確認</p>	<p>戦争をやめるには</p>	<p>ウインロックという小さな村のどまんなかを川が流れていた。東の人たちと西の人たちは悪口を言ったり取っ組み合ったり。ある晩、嵐がやってきて、川にいつぼんだけかかっていたおんぼろ橋がこわれてしまい…。</p>
	<p><b>麦畑になれなかった屋根たち</b> 藤田 のぼる/文 永島 慎二/絵</p>	<p>てらいんく 2014.11 1,540円 要在庫確認</p>	<p>幼児～小中まで 「平和」って？</p>	<p>アメリカの飛行機は、なぜあんなに高いところから工場を見分けることができたのか。空襲を受けなかったために、1000人もペンキ屋さんが1日で、広い工場の屋根を「麦畑」にぬりかえた。しかし…。</p> <p>多くの戦闘機を作っていた工場を空襲から守るために、屋根をペンキで塗って麦畑のように偽装したということですが、その努力はアメリカ軍には全く意味を持ちませんでした。そんな滑稽さの下で多くの犠牲者が出たことを笑えません。それだけ日本とアメリカの力の差が歴然としていたのです。事実をもとに書かれたお話。</p>
	<p><b>麦ほめに帰ります</b> 一色 悦子/文 国井 節/絵</p>	<p>新日本出版社 2010.4 1,650円</p>	<p>戦いが終わっても</p>	<p>それぞれの時代に、戦場の足手まといとされた3人の男たちが出会い、麦を実らせ、最後のいのちを、人間らしく生きる—。</p> <p>早春、麦が芽をだすと、麦畑に立って、「ことしの麦はよい麦だ」と声をかける習わしがあります。そんなふうになほめられて育った麦たちが、金色の穂をゆらす麦秋は、夢のように美しい—。</p>
	<p><b>むしのほん</b> エドワード・ゴーリー/作 柴田 元幸/訳</p>	<p>河出書房新社 2014.12 1,100円</p>	<p>「格差」「差別」と向き合う</p>	<p>虫あお・あかき(いとこ)と、虫クロ=よそ者意地悪のお話。仲間社会の社交性をどう保つか、仲間会議の結果は…。</p> <p>“カラフルなむしたちの しゃこうせいかつを だいなしにした くらいむしのうんめい”……生きていく哀しさと美しさを虫たちに託して描いた傑作。</p>

	<p><b>モナのとり</b></p> <p>サンドラ・ポワロ＝シェリフ/作 水橋 はな/訳</p>	<p>新日本出版社</p> <p>2022.6</p> <p>1,760円 要在庫確認</p>	故郷を失う	<p>モナとお母さん、お父さんは、フランスで暮らすために、遠くからやってきました。戦争をしている国から、逃げてきたのです。学校はとても楽しくて、友だちもできました。けれど、モナのそばには、いつも黒い鳥がいます。鳥は、昼も夜も、どこに行く時も、モナに着いて来るのです……。</p>
	<p><b>やくそくのどんぐり</b></p> <p>大門 高子/文 松永 禎郎/絵</p>	<p>新日本出版社</p> <p>2010.9</p> <p>1,650円</p>	被爆者の思い	<p>日本は世界でただ一つの被爆国。でも被害者は日本人だけではありません。広島原爆でなくなった人の約一割が、韓国・朝鮮の人たちだといわれています。国に帰ってから十分な治療を受けられず、みんな、二重三重の苦しみ強いられました……。</p> <p>同じ被爆者として心を通わせた日本人医師と韓国人被爆者の絆と友情の絵本。</p>
	<p><b>やめて！</b></p> <p>デイビッド・マクフェイル/作・絵 柳田 邦男/訳</p>	<p>徳間書店</p> <p>2009.11</p> <p>1,760円 注文不可</p>	戦争を起こさせないために	<p>「No」という一言が世界を変える。静かに「暴力反対」を訴える。</p> <p>男の子は、一通の手紙を書きおえると、封をとり、切手をはり、ポストに出しにでかけました。そのとき、男の子のまわりで起こっていたことは…？200冊を越す絵本に携わったデイビッド・マクフェイルが、争いのない未来への願いをこめて描きました。文字のない一画面一画面が雄弁に物語を伝えます。そして、男の子が口にしたことは、それは……。すべての暴力に対して「やめて！」と訴える力強い絵本。</p>
	<p><b>ゆきのひ</b></p> <p>エズラ＝ジャック＝キーツ/作 木島 始/訳</p>	<p>偕成社</p> <p>1990</p> <p>1,320円</p>	「格差」「差別」と向き合う	<p>雪がつもった朝、ピーターは外へ飛びだした。雪で遊んだ一日の、新鮮な感動と素朴な喜びを貼り絵で描いた、心に余韻の残る絵本。</p> <p>キーツの作品の中でも貼り絵の技法がひと際際立つ、シンプルだけれども印象に残る美しい絵本です。雪の中に立ったときのピーターのわくわくした気持、とめられない好奇心などが画面から直接伝わってきます。小さい子や大人も関係なく雪の美しさに感動するでしょう。</p>
	<p><b>ようこそ！わたしの町へ</b></p> <p>家をはなれてきた人たちと あなたの町から世界を変えよう</p> <p>ミアリー・ホワイトヒル、ジェニファー・ジャクソン/文 ノマー・ベレス/絵 上田 勢子、堀切 リエ/訳</p>	<p>子どもの未来社</p> <p>2022.8</p> <p>1,650円</p>	故郷を失う	<p>様々な理由で、住んでいた家を離れて、新しい町へ引っ越さなければならなくなった人たちがいます。なぜ引越してきたのか、その人たちをどう迎えたらいかがか、この絵本でわかります。「ようこそ！」の気持ちを伝え、あなたに何ができるかのアイデアを紹介しました。言葉や文化の違う人たちを迎え入れ、世界をよりよくなりたいと願っている友だちや家族、あなたのまわりの人たちと、ぜひ読んでください。</p>
	<p><b>よしこがもえた</b></p> <p>たかとう 匡子/作 たじま ゆきこ/作</p>	<p>新日本出版社</p> <p>2012.6</p> <p>1,540円</p>	戦時下の子どもたち 空襲	<p>1945年7月3日の夜、姫路空襲のさ中、6歳の姉の手からもぎとられて3歳のよしこは炎の中に消えていった。</p> <p>おそろしい戦争があって、日本の町という町が焼け野原に……。1945年7月4日の夜、悲しい出来事が起こった。</p>
	<p><b>ルブナとこいし</b></p> <p>ウェンディ・メデュワ/文 ダニエル・イヌユ/絵 木坂 涼/訳</p>	<p>BL出版</p> <p>2019.2</p> <p>1,650円 絶版</p>	大切なものを守る	<p>ルブナが一番の友だちは、小石でした。小石はいつも、話を聞いてくれます。悲しい時は、笑いかけてくれます。ひとりの少年が、難民キャンプのテント村にやってきて一緒に遊ぶようになりました。ルブナと少年と小石……。やがて、別れのときが来ます。</p>
	<p><b>わたし</b></p> <p>谷川 俊太郎/文 長 新太/絵</p>	<p>福音館書店</p> <p>1992</p> <p>1,100円</p>	人間の「尊厳」とは	<p>わたしは山口みち子、5才。お兄ちゃんからみると「妹」でも、犬から見ると、「人間」。わたしはひとりなのに呼び名はいっぱい。社会関係を楽しく描きます。</p> <p>「わたし」は「わたし」。山口みち子、5さい。でも、「わたし」って誰なんだろう？「わたし」は「わたし」。一人のはずなのに、こんなにいっぱい呼び名がある。考えはじめてと止まらない。今まで見ていた景色がちがってみる。自分の世界がぐらぐら揺れる、はじめての「哲学絵本」！</p>
	<p><b>わたしたちだけのときは</b></p> <p>デイビッド・アレキサンダー・ロバートソン/文 ジュリー・フレット/絵 横山 和江/訳</p>	<p>岩波書店</p> <p>2018.9</p> <p>1,540円</p>	「格差」「差別」と向き合う	<p>おばあちゃんは子どもの頃、家族のもとをはなれて、家から遠くはなれた学校に行くことになった。そこでは制服を着せられ、髪を切られ、自分の言葉で話すことを禁じられた。「どうしてなの？おばあちゃん」孫娘の素朴な問いに答える形で、カナダ先住民への同化政策の歴史と、子どもたちのいじらしい抵抗を描く。</p>
	<p><b>わたしたちの「無言館」</b></p> <p>窪島 誠一郎/作</p>	<p>アリス館</p> <p>2012.4</p> <p>1,100円</p>	「戦争」がもたらすもの	<p>若い画学生たちの生命の輝きをつたえる道標。 小学生・中学生のための「無言館ガイド」。</p> <p>1. 『約束「無言館」への坂をのぼって』 2010.6 1,540円 希望をもって生きるすばらしさ！ 絵本版・無言館のできるまで</p> <p>2. 『いのち わたし、画学生のぶんまで生きる』 2011.6 1,540円 戦争で死んだ画学生が伝える熱いメッセージ</p>
	<p><b>私はどこで生きていけばいいの？</b></p> <p>ローズマリー・マカーニー/文 西田 佳子/訳</p>	<p>西村書店 東京出版編集部</p> <p>2018.6</p> <p>1,650円</p>	故郷を失う	<p>誰にでも住む家が必要です。子どもたちには、安全で、幸せに暮らせて、家族と食事ができて、おもちゃで遊べて、なんの不安もなく眠りにつける場所が必要なのです。しかし、世界には、危険がせまって家を離れざるをえない人たちもいます。戦争や紛争のために、多くの子どもたちとその家族が、難民になりました。彼らの人生は、過酷で不安に満ちています。それでも、ときに笑い、遊び、友だちをつくります。どこかで、誰かが、自分たちを温かく迎えてくれるだろうという希望を胸にいだいて…。新たな家をさがしつとめ、前を向いて生きる子どもたちと家族の写真絵本。</p>

	<p><b>戦争と平和</b> 子どもと読みたい絵本ガイド 草谷 桂子/著</p>	<p>子どもの未来社 2023.6 1,650円</p>	<p>「いのち」って？ 「友だち」って？ 「ちがひ」って？ 「平和」って？…</p>	<p>絵本をきっかけに子どもたちに伝えたい、考え合いたい。小さな子どもたちにはユーモアや柔らかな目線で戦争の虚しさ、愚かさを伝える絵本を仲よしの友だちや信頼している大人たちといっしょに…。客観的に物事が見られるようになった年齢の子どもたちには「戦争と平和」にさまざまな思いを重ねられる絵本を少しずつ…。</p>
	<p><b>平和の種が見つかる絵本 55</b> 中本 晶子/編著</p>	<p>高文研 2023.12 1,760円</p>	<p>「平和」ってなんだろう？ 「戦争」がもたらすもの 人間の「尊厳」とは？ 「格差」「差別」と向き合う 「地球」とともに生きる 作家の思い</p>	<p>「平和」ってなんだろう？単に「暴力」や「戦争」のない状態にとどまらない「積極的平和」への想像力を培うヒントとなる55冊の絵本をベテラン司書が紹介します！</p>
	<p><b>「この本読んで！」</b></p>	<p>メディアパルムック 出版文化産業振興財団 季刊 1,100円</p>	<p>参照 特集 平和を考える絵本 NO.83(2022年夏) NO.87(2023年夏) NO.91(2024年夏)</p>	<p>全国各地の読みきかせ・絵本大好きな方々のネットワーク・交流を図るため、絵本と読みきかせの情報誌。2001年11月22日に創刊。</p>
	<p>クレヨンハウス <b>絵本スクール</b> 大事なことをぜ～んぶ「学べる」絵本ガイド</p>	<p>クレヨンハウス 2008.11 1,760円</p>	<p>平和の絵本</p>	<p>クレヨンハウスがスタートして30年。子どもたちに支持される絵本を紹介してファンの多い絵本専門店ならではの選書が魅力です。見開き写真入り。  魔法の絵本 こころの絵本 ことばあそびの絵本 いのちの絵本 イメージの絵本 平和の絵本 しかけ絵本・紙芝居 昔話の絵本 宇宙の絵本 恐竜の絵本 放課後の絵本 おうちの絵本</p>
	<p><b>一冊の絵本が子どもを変える</b> こんなときには、こんな絵本を <b>一冊の本・絵本が学校を変える</b> 多賀 一郎/著</p>	<p>黎明書房 2022.5 2023.1 各2,090円</p>	<p>関連する本 『一冊の本が学級を変える』改訂版 クラス全員が成長する「本の教育」の進め方 黎明書房 2022.2 2,100円</p>	<p>絵本には子どもたちの生き方を変える教育的力があります。本書は、日々の学級指導に絵本を活かす「こんなときには、こんな絵本を」や、季節に合わせた絵本を味わう「絵本歳時記」など、教育効果のある質の高い絵本を紹介します。あわせて、著者の長年の経験に裏打ちされた絵本の選び方や読み聞かせの仕方についても詳しく語ります。教育現場から家庭まで役立つ一冊。  子どもたちに説明し、理解させるのが難しい人権教育、命の教育、食育、SDGs、平和教育、認知症や発達障害などの意味が、心からわかってもらえる本・絵本を厳選し、著者の実践にまつわるエピソードを交え紹介。不登校の子に薦めたい本・絵本、保護者会で読んで保護者を変えてしまう絵本、生活指導に効果的な子どもの心に浸透していく本・絵本などについても具体的に紹介。</p>
	<p>子どもたちが考え、話し合うための <b>絵本ガイドブック</b> 子ども図書館司書/編 アーダコーダ/編 河野哲也/監修</p>	<p>アルパカ 2023.3 1,980円</p>	<p>「子ども哲学」のすすめ</p>	<p>子ども哲学の対話の流れ  ①アイスブレイク ②絵本の読み聞かせ ③感想の共有・問い出し ④問いに関する話し合い ⑤ふり返り  問いを立てる その対話の問いが何かを参加者全員で共有すること。 対話に方向性が生まれ、協働的になる。</p>